





至リタルハ實ニ本會社創立ノ濫觴ナセリ、爾來販路ノ擴張ニ連レ、需要ノ激増ヲ來シタルガ故ニ明治四十四年六月法人組織ニ改メ合名會社ヲ設立シ、比年業務ノ進展ヲ圖リ大正二年十月更ニ組織ヲ變更シテ株式會社トナシ、大正十年十月増資ヲ行ヒ、會社ノ基礎漸次鞏固トナリ以テ今日ニ及ベリ

二、特徵及産額

本社ノ取扱フ竹材ハ主トシテ苦竹ニシテ原料材トノ關係上輸出向ニ適應シ其取扱額ノ約六割ヲ占メ殘四割ハ建築用、籬用、籠、傘、扇子骨等各種ノ用途ニ需要セラル、特ニ此地方ノ竹材ハ材質極メテ堅韌彈力並ニ耐久性ニ富ミ、長幹ニシテ各種ノ加工製作ニ適シ且竹材固有ノ色澤ヲ失ハザルノ特色アリ、而シテ本社ハ數年來竹材ノ供給ノ現勢ヲ察シ、自家栽培ノ竹林造成ニ銳意努力シ、左表ノ通り現時相當産額ヲ見ルニ至レリ

年次	生産本數
大正八年	九萬
大正九年	十萬
大正十年	十一萬

三、結算法並ニ價格ノ變遷(但シ生産地値段)

本社地方取扱ノ竹材ハ左ノ結算法ニ依ルモノニシテ去ル明治三十八年以降ニ於ケル、單價ノ變遷ヲ調査スルニ左ノ如シ

種類	一東ノ本數	明治三八年	明治四四年	大正二年	大正十一年
柄竹	六〇	〇、〇八〇	〇、二四〇	〇、三六〇	一、〇〇〇
三寸	四〇〇	〇、一〇〇	〇、三〇〇	〇、四五〇	一、八〇〇

四、販路並ニ用途

本社取扱竹材ハ比年販路ヲ擴張シ專屬ノ帆船ヲ用ヒ萩港ヨリ、需要地ニ輸送スル方法ヲ採ルニ至レリ、今各仕向地ニ於ケル、需要途ノ主要ナルモノヲ舉グレバ左ノ如シ

尺	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
四寸	二〇〇	〇、一五〇	〇、四五〇	〇、七〇〇	二、二〇〇	〇、一五〇	〇、四五〇	〇、七〇〇	二、二〇〇	〇、一五〇
五寸	一〇〇	〇、一五〇	〇、四五〇	〇、七〇〇	二、二〇〇	〇、一五〇	〇、四五〇	〇、七〇〇	二、二〇〇	〇、一五〇
六寸	六〇	〇、一五〇	〇、四五〇	〇、七〇〇	二、二〇〇	〇、一五〇	〇、四五〇	〇、七〇〇	二、二〇〇	〇、一五〇
七寸	四〇	〇、一五〇	〇、四五〇	〇、七〇〇	二、二〇〇	〇、一五〇	〇、四五〇	〇、七〇〇	二、二〇〇	〇、一五〇
八寸	三〇	〇、一五〇	〇、四五〇	〇、七〇〇	二、二〇〇	〇、一五〇	〇、四五〇	〇、七〇〇	二、二〇〇	〇、一五〇
九寸	二〇	〇、一五〇	〇、四五〇	〇、七〇〇	二、二〇〇	〇、一五〇	〇、四五〇	〇、七〇〇	二、二〇〇	〇、一五〇
一尺	一〇	〇、一五〇	〇、四五〇	〇、七〇〇	二、二〇〇	〇、一五〇	〇、四五〇	〇、七〇〇	二、二〇〇	〇、一五〇
一尺七寸	七	〇、一五〇	〇、四五〇	〇、七〇〇	二、二〇〇	〇、一五〇	〇、四五〇	〇、七〇〇	二、二〇〇	〇、一五〇
尺一	七	〇、一五〇	〇、四五〇	〇、七〇〇	二、二〇〇	〇、一五〇	〇、四五〇	〇、七〇〇	二、二〇〇	〇、一五〇

五、竹林經營

本社ハ創立以來主トシテ地方産竹材ノ優良ナルモノヲ買收シテ之ヲ需要者ニ供給スル方法ヲ採リタルモ、交機機關ノ普及及發達ニ從ヒ原産地ニ於ケル集散自由トナリ、且優良竹材ノ生産遂次困難トナル傾

向ヲ察シ、大正七年以來竹林ヲ經營シ、永遠ニ顧客ノ注文ニ應ズルノ外ナキヲ痛感シ、竹林經營ニ努力シテ今後一層該事業ノ擴張ヲ期セントス而シテ現時ニ於ケル所有竹林ハ本社近傍ニ臺帳面積五十町歩ニシテ各所在地ニ管理人ヲ置キ、林地ノ保護並ニ施業實行ノ任ニ當ラシメツアル現況ナリ

六、本社ノ營業ガ地方竹林業ニ及ボシタル影響

萩地方ハ竹材ノ生産豊富ナルモ之ガ適切ナル利用途ノ發展ナキヲ以テ竹林ニ對スル愛撫ノ念極メテ薄ク、全ク放置林ノ域ヲ脱セザリシガ本社率先シテ竹材移出ノ途ヲ講ジ比年販路ノ擴張ニ伴ヒ、各地方ヨリノ注文、竹林所有者ニ殺倒スルニ至リタル結果、竹林ニ對スル從來ノ面目ヲ一新セムトスルニ至リタルノミナラズ轉近縣八郡ヲ通ジ、竹林造成ヲ獎勵シ、特ニ既成竹林ノ改良ヲ重視セララルガ爲メ肥培撫育事業興隆ノ氣運長州地方一帯ニ磅礴セリ

二、加工木竹材

加工木竹材ニ屬スル出品人員ハ二百二十五名ニシテ出品總數ハ七百七十八點ニ達シ出品地方ハ一府、二十七縣、朝鮮總督府、台灣總督府、青島民政署及滿洲ニ互リ其ノ品種ハ五十五種ヲ算シ之ヲ東京大正博覽會ニ於ケルモノト比較スルニ點數ニ於テ六割五分人員ニ於テ四分ノ増加ヲ示シタリト雖彌テ之ヲ近時著シク進歩發展ヲ爲セル我邦木竹材工藝ノ狀況ニ鑑ミ今回ノ出品ハ數量品質又ハ品種ニ於テ概シテ新業ノ大勢ニ添ハザルノ憾アリ歐洲戰爭以來時運ハ急激ニ進展シ爲メニ新業ノ異常ナル進歩發達ヲ促シ各方面ニ幾多ノ改善行ハレ更ニ機械力ノ應用ニヨリ新規ノ考案ヲ施スアリ或ハ歐米ヨリ新式ノ機械ヲ輸入シテ製作スルアリ爲メニ木材利用上一新生面ヲ開拓スルト共ニ内外需要

ノ急ニ應ジ多大ノ生産ヲナシ木竹工藝ハ未曾有ノ發展ヲ遂グルノ盛況ヲ見タリ就中其著シキモノハ「ベニア」材、包装箱仕組板、紡績木管材、防腐材、木鋪道材、水道木管材、木毛、曲木材、面縁材、燐寸軸木等ニシテ從來ト大ニ趣ヲ異ニスルモノアルニ拘ラズ此等主要产品ニシテ今回其ノ出品ヲ見ルモノアリ爲メニ一般需要者ノ參考ニ供シ若クハ生産者ニ對シ産業獎勵ノ資料トナスヲ得ザリシハ遺憾ニ堪ヘズ本邦ノ森林資源ハ漸次減少シ木竹材ノ需要ハ次第ニ増加ノ趨勢ニアルヲ以テ木竹材ノ節約周約ナル使用劣等材ノ利用ヲ圖ルハ極メテ緊要ナリトス轉近木竹材工藝ノ進歩發展著シキモノアリト雖彌新規ノ考案、改善ノ餘地少ナシトセズ而シテ今回ノ出品中近年製作上幾多ノ改善ヲ施セル「ベニア」材ノ如キ新考案ヲ廻ラシタル模擬材ノ如キ或ハ木材規格統一ニ關スル出品ノ如キ斬新ナルモノ等アリシハ稍意ヲ強クスルニ足ルモノアリ

府縣別出品及授賞一覽

府縣名	出品名	出品數	授賞名	授賞數
府縣	出品名	出品數	授賞名	授賞數
東京府	四一	三一七	一	一
神奈川縣	四	一五	一	一
新潟縣	二四	五〇	一	一
埼玉縣	二	五	一	一







樽材ハ奈良縣澤井駒太郎外二十三名ヨリ五十九點ノ出品アリ就中奈良縣ノ樽丸ハ品質優良選別包装ノ完全ナルコト他ノ遠ク及バザル所ニシテ古來ノ名聲ヲ維持スルモノト謂フベシ又青森縣小館木材株式會社ノ出品ニ係ルハ樽材ハ機械力ノ應用ヲ試ミタルモノニシテ木材ノ周約ナル利用ヲ圖ルヲ得推賞ニ値ス

建築材基準寸法並品等標本ハ東京市株式會社社長島商店ノ出品ニ係リ和洋兩風木造家屋ノ各材料ニ付キ其ノ基準寸法及品等ニ關スル標本ヲ蒐集シタル百六十一點ニ達スル多數ノ出品ニシテ東京市木問屋同業組合出品ノ文化材ニ於ケル日本家屋ト相待テ現今官民共ニ攻究シツツアル木材規格統一ノ參考トシテ好資料ナリ而シテ該標本ノ品等別及基準寸法ハ建築材料聯合調查會ニ於テ決定セシ案ト出品人ノ修正案トヲ比較對照セルモノニシテ出品人多年ノ經驗ト緻密周到ナル考慮ト待テ始メテ成ルモノナルヲ以テ本問題解決上裨益スル處少カラザルベシ(出品標本解説書寫參照)

摸擬材ニ關スル出品ハ東京府小泉兼藏外六名ヨリ十二點其他遠棚板ニ二點及庄框ニ一點アリ總計十五點ニ達セリ近時特殊工藝木材ノ漸ク缺乏シタル結果自然ノ要求ニ依ルモノニシテ木材工藝上ノ一進歩ト謂ハザルベカラズ就中東京府小泉兼藏ノ燒杉丸太ハ檜榔ニ酷似シ甚美麗ナルモノナリ又東京市岡野富之助ノ出品ニ係ル人造鐵刀木モ技巧ニシテ一見眞ノ鐵刀木ノ如シ然レドモ之等ノ製作法ハ孰レモ未ダ幼稚ニシテ手數ヲ要スルコト甚多ク從テ價格比較的高ク之加モ多量ノ生産ヲ期シ得ザルヲ憾ミトス又本出品中最多數ヲ占ムル人造黑柿亦此ノ範ヲ脱セズ本出品ノ如キハ今後益々世間ノ需要ヲ喚起スルニ至ルベキヲ以テ

製作ノ改善ニ一層ノ工夫ヲ凝ラシ廉價ニ優良品ヲ多ク供給スルニ努ムンコトヲ希望ス

紡績用木管ハ大正三年中我邦ニ於ケル主ナル工場ノ製産高約一千三百三十九萬箇其價格四十八萬六千圓餘ナリシガ逐年急激ニ増加シ大正八年ニ於テハ約四千四百七十七萬箇價格ハ實ニ三百八十三萬七千圓ニ達シ大正三年ニ比シ大約八倍ニ垂タトスルノ盛況ヲ呈セシニ拘ラズ今回ノ出品ハ人員僅ニ三出品點數五點ニ過ギズ然カモ特記スベキ出品ナカリキ

人工木板ハ静岡市美術製材株式會社ヨリ二十一點ノ出品アリ該會社ハ大正二年東京府下大崎町ニ於テ創立セシモノニシテ東京大正博覽會ニモ之ヲ出品シテ受賞シ爾來之ガ經營ニ努力セシモ技術ノ未熟ナルト經營方法宜シキヲ得ザリシ爲メ一時殆ド中絶スルノ已ムナキニ至リシガ其後優秀ノ一技工ヲ聘シテ銳意製作ノ改善ヲ圖リ更ニ之ガ應用ノ範圍及販路ノ擴張ニ努メタル結果漸ク盛況ニ進ミ大正八年静岡市ニ移轉シタル當時ハ年産額僅ニ四千圓ナリシモノガ大正十年ニハ九千圓ニ達セリ然レドモ本製品ハ價格尙不廉ナル嫌アルヲ以テ之ガ低下ニ努メ益々應用ノ範圍ヲ擴メ更ニ製作上一段ノ改善ヲ企劃セラレンコトヲ希望ス

淺野板解説書 名古屋市西區上島町 合名會社淺野木工場

一、製造地 本工場 名古屋市西區上島町 家具分工場 同 市同區志摩町

二、丸剝機 薄板挽機、乾燥機、著藥機、壓搾機、帶鋸機、堅鋸機、其他大小機百五十餘點

一、製品之種類 輸出合板茶函、護謨函、飛行機用材料、軍用函、建築用材料、セント樽、家具諸機械其他

一、製産能力 茶函、護謨函、其他 一箇年 百二十萬箇 「セント」樽其他 同上 六拾萬箇 合板 同上 一千萬平方尺

一、仕向地 內地 各府縣、臺灣、朝鮮 外國 英國、米國、濠洲、支那、印度、南洋諸島

一、特許權之取得 (イ) 名稱 淺野式合板 特許番號 第壹七六參號 收得年月日 明治四十三年二月十日

(ロ) 名稱 淺野式「ローラー」乾燥機 特許番號 第貳五五貳號 收得年月日 大正三年三月二十三日

(ハ) 名稱 淺野式合板製造裝置 特許番號 第貳八七五四號 收得年月日 大正四年十二月十四日

(ニ) 名稱 淺野式「ローラー」著藥機 特許番號 第貳九〇參九號

熱田分工場 名古屋市南區熱田町 但馬分工場 但馬國新井驛前 信濃分工場 信濃國下伊那郡上村合川 東京支店 東京市神田區鑓倉河岸 大阪專屬販賣店 大阪市西區道頓堀通二丁目 姫路專屬販賣店 姫路市農人町 岡山專屬販賣店 岡山市下石井 廣島專屬販賣店 廣島市八丁堀 吳專屬販賣店 吳市堺川通六丁目

一、創立 桶樽業創始 凡ソ百五十年前 製材業開始 明治二十四年五月 合板業開始 明治四十年

一、組織及資本金額 合名會社 資本金七拾五萬圓(全額拂込済) 代表社員 淺野吉次郎

(大正十年三月合名會社組織前ハ淺野吉次郎個人ノ經營ニシテ其儘繼承シタルモノナリ) 一、職工 男工 六百名 女工 五十名

一、原料 楠、楡、樺、楓、雜木、唐木、其他一切 一、主ナル機械 蒸氣力 三百馬力 電氣力 二百馬力 水動力 六十馬力



收得年月日 大正五年二月十六日

(ホ) 名 稱 鐵力板代用箱締機

特 許 番 號 第四參八四〇號(實用新案)

收得年月日 大正六年八月二十三日(實用新案)

(ニ) 名 稱 合製板一切ニ用スル商標

商標登錄番號 第七五壹六參號

收得年月日 大正四年十月十五日

(ト) 名 稱 合板製「セメント」樽

特 許 番 號 第五四八參〇號(實用新案)

收得年月日 大正九年十一月二十九日

一、創業以來ニ於ケル事業消長變遷

本工場ハ祖先累代ノ業トシテ製桶業ヲ營ミ來リシモ今ヲ距ル百五十年前ヨリ一層業務ヲ擴張シ諸種ノ樽類ヲ製作シ之ヲ諸國ニ販賣セリ當代吉次郎ハ明治十一年五月歳二十歳ニシテ父ノ業ヲ承ケ繼ギ專ラ諸樽製造販賣ニ勉メ傍ラ水力利用ノ研究ヲ重ネ苦心ノ結果水車機ニ大ナル増力ヲ得之レヲ自己考案ノ精米機並ニ諸種ノ機械ニ應用シ好果ヲ收メ之ヲ自家ニ据付ケ又ハ他ノ依頼ニ應ジ之ガ供給ニ努メタリ

明治二十年五月樽ノ製造法ハ在來固有ノ手製ニ過ギザレバ其ノ製造高モ亦輕微ナリシ茲ニ於テ菲才微力ヲモ顧ズ苦心研究ノ結果最モ輕便ナル手働足踏ニテ廻轉スル樽側挽割機ヲ獨力考案製作シ之ヲ使用シテ專ラ「セメント」樽ノ製造ニ從事シ需要者ニ満足ヲ與フルコトニ努メタリ蓋シ其當時「セメント」樽ノ製造ハ我國ニ於テハ本工場ノ外ニテ經營セシモノアラザリシ

明治參拾貳年帶鋸機械ヲ苦心研究ノ結果自家ニ於テ製作シ之ヲ本工場ニ使用シテ多大ノ便益ヲ得タルヲ以テ世ニ公ニスルノ必要ヲ感じ同業者ノ要請ニ應ジテ該機械ヲ製作分領シ非常ナル好成绩ヲ得タリ明治參拾六年ニ製函部ヲ増設シ各種ノ機械ヲ据付ケ輸出茶函組板及輸出石油函ノ製造ヲ開始シ拮据經營海外輸出ニ力ヲ注ギ大ニ輸出產額ヲ増加スルコトヲ得タリ

明治四拾年業務ノ大擴張ヲ企圖シ其ノ原材料ノ供給如何ヲ顧慮シ之ガ調査ヲナセシニ社會ノ發達ト共ニ樽函、建築用材ノ需要激增日ニ多キヲ加ヘ各地何レモ、伐採數夥多ナルニモ拘ラズ之ガ基礎タル植林事業ガ隨伴セズ爲ニ用材漸次缺乏ヲ告ゲ從テ價格昂騰ノ趨勢アルヲ以テ延テ製材界ニ一大恐慌ノ時期襲來スルヲ洞察シ之ガ秩序ノ恢復ヲ計ルニハ植林事業ヲ獎勵シ傍ラ同業者ノ厄介物視セル廢物タル雜木ヲ利用スルノ最モ緊要ナルヲ認メ茲ニ雜木利用ノ研究ニ志セリ蓋シ雜木ノ利用ハ尤モ難事トスル處ニシテ之レヲシテ間然スル處ナク應用ノ途ヲ開クニ於テハ木材工業界ノ面目ヲ一新シ社會ニ貢獻スル處尠少ナラザルヲ確信シ爾來幾多ノ勞苦辛酸ヲ辭セズ研究ヲ積ミ漸ク貳箇年ノ星霜ヲ經テ遂ニ合板ノ製造ヲ完成シ茲ニ聊カ雜木利用ノ途ヲ拓クコトヲ得タルハ當業者自他ノ幸福ト謂フモ敢テ過言ニ非ラザルベキヲ信ズ

仰モ合板ノ製法ハ數種ノ機械ト數種ノ藥品トヲ使用シ完成セシメタルモノニシテ即チ剝取機械ニ依リ木材ヲ橫割シ恰モ卷紙ヲ伸開スルガ如ク薄板トナシ之ヲ乾燥機ニ移シ乾燥セシムルト同時ニ雜木ノ通有性タル伸縮割裂、捻、歪等ヲ矯正シ板目ノ方向ニ從ヒテ一割以上收縮セシムルヲ尋テ三枚乃至數枚ノ乾燥薄板ノ纖維ヲ縱橫ニシテ合

明治二十三年我國製材事業ノ微々トシテ振ハザルハ其基因スル處偏ニ製材機械ノ不備ナル點ニアルヲ慮リ刻苦奮勉以テ機關ノ原動力ニヨル堅鋸機械ヲ發明製作シ之ヲ自己ノ工場ニ備付ケ使用セリ尤モ其當時我邦ニ於テハ原動力ニヨル堅鋸機械ヲ使用スルモノナク尙且外國製品ヲ見ルハ愚カ其ノ型錄スラ容易ニ手ニスルコト困難ナル場合ナリシ後漸次建築其他用材ノ需要増加スルト共ニ堅鋸機械ノ效果顯著ナルヲ世人ノ認ムルヤ知人ヨリ特許ノ出願ヲ勸メラレタルモ之ヲ汎ク普及センガ爲自ラ進シテ之ヲ當業者ニ預テ、可及的指導ノ任ニ就キ今日ノ隆盛ヲ見ルニ至リタリ

明治二十五年樽側ハ挽割機ヲ以テ製作ヲナスモ其ノ蓋底ニ於テハ古來同様ノ手製ナルヲ以テ之ガ生産ニ於ケル勞力ノ不經濟ハ勿論其製造ノ遲緩ナルヲ憂ヒ研究日ヲ積ミ漸ク蒸氣力應用ノ蓋底挽割機ヲ考案製作シ其蓋底(楕圓形木口藥研型)ヲ以テ「セメント」樽ニ應用シ完全ナル良樽ヲ製作スルニ至レリ  
其後英國ラムソン商會主來リテ當工場ヲ縱覽セラレシニ製材並ニ、製材方法ノ簡易ニシテ迅速ナルヲ激賞シ之ニ使用セラレタル機械ハ決シテ机上ニ於テ案出セラレタル種類ノモノニ非ズシテ必ヤ當工場主ガ自身親シク苦心ヲ嘗メラレタル結果其ノ天稟ノ才能ニ依リテ發明セラレタルモノナルベシ、我歸國ノ上ハ此方法ヲ採リテ從來使用ノ諸機械ヲ改良スル事ヲ許サレタリ述ベ本工場主ノ快諾ヲ得テ欣然満足ノ色アリタリ

明治二十九年汽機汽罐ヲ増設シ事業ノ發展ヲ圖リ「セメント」樽輸出ノ端ヲ啓キ販路擴張ヲ計ルト共ニ之ガ製作機械ノ改善ニ留意シ爾來年ヲ逐ヒ輸出額ノ増進ヲ見タリ

セ本工場ノ獨特發明ノ藥品ニテ密着セシム之レヲ密着セシムルニハ糊付機械ニ依リ藥品ヲ附着セシメ之レヲ壓搾機ニ掛ケ其密着ヲ完全ナラシム之ニ使用スル諸機械ハ悉ク金屬製ニシテ本工場主一身ヲ以テ發明シ精練職工ニ依リ製作セシメタルモノナルヲ以テ是等ニ對スル投資モ亦僅少ナラズ斯ノ如クニシテ遂ニ當初ノ目的ヲ達行シ製作ノ完成ヲ告ゲ精良ノ製品ヲ出スニ至リタル其當時ニ於ケル本工場當事者ノ歡喜ハ譬フルニモノ無カリキ

明治四拾貳年貳月二十六日淺野式合板ノ名稱ヲ以テ專賣特許ヲ出願シ翌四拾參年貳月十日第壹七六參號ノ專賣特許權ヲ得タリ同年英國バブコック、エンド、ウヰルコック社最新式蒸氣機關ヲ設置シ工場ノ大發展ヲ行ヒ爾來更ニ進シテ改良研究ヲ重ネ之ニ依リテ茶函組板ヲ製造シテ輸出ニ努メ合板ヲ歐米、濠、印、南洋諸島其他諸國ニ輸出シテ好評ヲ博シ需要益々旺盛トナレリ又現在内地ニ於テハ鐵道省各部管理局及陸海軍工廠ヲ初メトシ其他家具并ニ建築用、襖戸、天井、床板等ニ應用シ其需要日進月歩益々増進ノ傾向ニ向ヒタレバ之レガ製造ニ精勵奮闘セリ

大正參年橫須賀海軍造兵部ヘ飛行機用材トシテ、屢々合板大幅物ヲ納入セリ、過般青島攻撃ニ際シ我ガ海軍使用ノ飛行機ハ實ニ此合板ヲ使用セラレタルモノニシテ非常ナル好成绩ヲ得タリ

大正五年始メテ合板ヲ以テ軍用彈藥函并ニ信管函ヲ試作シ試驗ノ爲納入シタルニ非常ナル好果ヲ得遂ニ多數ノ註文ヲ受ケ製作納入ス其他砲兵工廠ヨリ合板ノ利用多キヲ知ラレ續テ註文ヲ受ケツツアリ大正五年末以降世界大戰亂ニ起因セル船腹逼迫ノ結果從來北海道ヨリ供給ヲ得來リタル雜木原料ハ其運輸上甚大ナル停滯ト賃銀率ノ暴



騰ヲ見ルニ至リシニ依リ北見國其他ニ於テ各所ノ製材工場ニ機械ヲ供シテ特約工場トナシ、之ガ製造ヲ指導シテ合板半製品ヲ製出セシメ之ヲ本工場ノ原料ニ加ヘ來リ又内地ノ各方面ヨリモ鐵道便ニ依リテ雜木ノ蒐集ニ努メタルガ鐵道ノ輸送能力モ、亦非常ナル停滯ヲ來セシニヨリ更ニ新ニ比較的接近セル適當ノ山林地ヘ分工場ヲ設ケ、合板半製品ノ製作ヲ實行スルニ至レリ。之ニ依リテ木材ヲ以テスル輸送能力ヲ比較スレバ約四倍ヲ加フルコトナリ、日々ニ激増シテ底止スル所ヲ知ラザル本工場ノ原料供給ニ對シテハ百年ノ大計ヲ確立スルノ成算ヲ見ルニ至レリ

大正九年參月專賣特許淺野式合板製「セメント」樽ヲ考案シ右名稱ヲ以テ特許ヲ出願シ同年拾壹月第五四八參〇號ノ特許權ヲ收得シタリ

「ベニア」板解説書

靜岡縣濱松市板屋參百七拾番地ノ貳

日本樂器製造株式會社取締役社長 天野千代丸

一、沿革

明治卅年拾月資本金拾貳萬圓ヲ以テ設立登記ナシ爾來業務ノ發展擴張ニ伴ヒ資本金貳拾四萬圓、六拾萬圓、壹百貳拾萬圓、參百萬圓ノ四回ニ互ル増資ヲナシ大正十年八月濱松市西川樂器製造株式會社ヲ合併シ以テ資本金參百四拾八萬圓ノ現在ニ至レリ

「ベニア」板ハ當初樂器部分品ヲ得シガ爲製造ヲ始メタルニ過ギザリシモ明治三拾七年頃ヨリ天井板汽車船客室用トシテ堅木合板ノ類ヲ製出販賣スルニ及ビ需要日ヲ逐ヒテ増加スルニ至レリ因テ大正四年ヨリ時代ノ要求ニ順應スベク一大設備ヲ施シ爾來盛ニ東西内外ノ

需要ヲ充ツツ今日ノ盛況ニ及ベリ

一、製造場ノ位置總建坪數及規模

濱松市板屋	參〇ノ貳坪	従業員	五〇〇名
濱松市中澤	二五〇	従業員	七〇〇名
濱松市青木町字鶴屋	三四九七	従業員	一七〇名

一、製造方法及其特點

「ベニア」板ハ薄キ木板ヲ當社獨特ノ膠着劑ヲ以テ數枚張合セタル後表面ヲ飽ニテ削リ仕上ゲタルモノニシテ幾多進歩セル學理ト豐富ナル經驗ノ結果ハ破損歪等ヲ生ズル憂ナク木材トシテ最モ貴重ナル色澤光輝ヲ永久ニ保存スルヲ得ルノミナラズ幅ハ偉大ナル機械力ニヨリ丸太ヨリ連續シテ卷狀ニ削リ取ララルルヲ以テ自然木ニ得ラザル大サニ製作スルヲ得ルノ特點ヲ有ス

一、原料ノ產地及品種

北海道産ヲ主トス、而シテ檜、樺、楓、樺ノ類ヲ用フ

一、生産高

大正八年度	大正九年度	大正十年度
數量	數量	數量
金額	金額	金額

一、販路

内地一般及濠洲方面

一、效用

家具建築界ノ好材料

審査請求主眼及審査上參考トナルベキ事項

膠着、堅牢、仕上ノ精巧

本數字ハ一尺又ハ寸トス

一、木材品等

(一) 丸身等級

調査會 査定案

(角材及挽材) 最大丸身ノ幅ト大サトノ比ヲ以テシ之レヲ七等ニ區分ス

(但シ斷面長方形ヲナスモノハ其厚ヲ次ノ五等ニ區分ス)

サト幅トノ平均ヲ以テ大サトス

丸身 無

丸身一割 (一割以下)

丸身二割 (二割以下)

丸身三割 (三割以下)

丸身四割 (四割以下)

丸身五割 (五割以下)

大丸身 (五割ヲ超過スルモノ)

修正理由 丸身ノ等級別餘リニ夥多ニシテ類別ニ苦シムノミナラズ實用上一割ト二割トヲ合併スルモ何等差支ナカラシ又各邊ノ大サト丸身面ノ比ヲ以テノミナストキハ(例之三方丸身無ニシテ單ニ一方ニ六割ノ丸身ヲ有スルモノハ直ニ大丸身ノ等級トナスガ如キ)不合理ナルガ故ニ四邊ノ計ト最大丸身面ノ幅トノ比ヲ以テ定ムルニ公平且ツ明瞭ナルトス

丸身 無

(板材) 最大丸身面ノ幅ト板厚トノ比ヲ以テシ次ノ四等ニ區分ス

丸身 無

丸身三割 (三割以下)

丸身六割 (六割以下)

大丸身 (六割ヲ超過スルモノ)

丸身 無

丸身三割 (三割以下)

丸身六割 (六割以下)

大丸身 (六割ヲ超過スルモノ)

修正案

(角材及挽材) ノ丸身ハ最大丸身面ノ幅ノ計ト四邊ノ計トノ比ヲ以テシ之レヲ次ノ五等ニ區分ス

丸身 無

丸身一等 (二割以下)

丸身二等 (四割以下)

丸身三等 (六割以下)

丸身四等 (六割ヲ超過スルモノ)

丸身 無

(板材) ノ丸身ハ板ノ厚ト最大丸身ノ厚トノ比ヲ以テシ次ノ四等ニ區分ス

丸身 無

丸身四割 (四割以下)

丸身八割 (八割以下)

大丸身 (八割ヲ超過スルモノ)

丸身 無

丸身四割 (四割以下)

丸身八割 (八割以下)

大丸身 (八割ヲ超過スルモノ)

丸身 無

丸身四割 (四割以下)

丸身八割 (八割以下)

大丸身 (八割ヲ超過スルモノ)

我國ハ古來廣大ナル森林ヲ有シ木材ノ產出量極メテ豊富ニシテ殆ンド無盡藏ノ感アリシカバ建築ハ總テ木材ニヨリテ之レヲ充シタリ、特ニ近年ニ到リ其用途益々激増シ從來會テ顧ミラザル材種ニ至ル迄需要ノ途擴大セラルルニ到レリ、斯ル木材需要量ノ増加ハ價格ノ昂騰ヲ促シ延イテ品質ノ粗惡製材ノ亂雜ヲ生ジ土地ノ異ニスルニ從ヒ殆ンド眞正ノ稱呼ナク其ノ品質ニ對スル規格モ頗ル曖昧トナレリ斯ノ如キ狀態ニ在リテハ使用者ガ其ノ必要ナル大サノ品種ヲ購入セントスルモ其ノ稱呼ノ指示ニ惑ヒ、或ハ適當ナル寸度ナキガ爲メ不用ノ廢物ヲ生ジ國家ノ不經濟蓋シ計リ知ルベカラザルナリ

本邦ニ於ケル工業製品特ニ建築材料品質形狀寸法等ノ規格ハ從來區々ニ分レ極メテ繁雜ニシテ不統一ニ陥レルヲ以テ是等ヲ統一シ一定ノ基準ヲ作り以テ同種多量ノ生産品質ノ精良、生産費ノ低減、原料ノ經濟交換可能性ノ増加ヲ期シ彼是流用ニ便セシメ或ハ材料及製品ノ死藏數ヲ減少シ資金ノ冗費ヲ省クガ如キ財政政策ノ重要事項ニ屬スルヲ以テ曩ニ工業品規格統一調査會官制ノ發布アルヤ建築學會主催トナリ六大學會聯合調査會ヲ開キ審議ノ結果一ノ成案ヲ得タリ、今回平和記念東京博覽會開設ニ際シ斯業關係ノ諸彦並ニ一般觀覽者ノ研究資料トシテ右聯合調査會査定ノ木材基準寸法ニ依リ弊店ハ林業館内ニ標本ヲ出品陳列セリ、猶改善ヲ要スル諸點ヲ發見セシニヨリ説明書對照詳細論評ヲ加ヘタリ、今ニ於テ之レガ改善ヲ講究シ國家百年ノ大計上曠臍ノ悔ヲ除カントス幸ニ諸彦研究資料ノ一助トモナリナバ弊店ノ本懐之レニ過ギザルナリ。

陳列標本說明書

當標本ニ記入ノ寸法西洋數字mハ「メートル」cmハ「センチメートル」日







限スル時ハ需要供給共ニ便益ナル適法ト信ズ  
 次ギニ和風建具材標準寸法中、格子戸、雨戸、帶戸、板戸、硝子障子  
 戸等ノ各框及ビ棧ノ種類ニシテ餘リニ多様ノ寸法ヲ避ケ適當ノ寸法ニ

止メ各共通ニ使用シ得ル様規定スルノ要アリ然ラザレバ製品ト需要量  
 ノ著シキ過不足ヲ生ジ爲メニ生産側ニ利益ナク使用者側ノ不便又少ナ  
 カラズ兩者共損ノ場合多シ依テ左ノ如ク改善修正ヲ要ス

用途	規格	寸法	番號	材種	修正	規格	寸法	番號	材種	備考
格子戸	上	1.85 <sup>m</sup>	434	米楡		格子戸	1.85 <sup>m</sup>	438	米楡	幅ニ於テ1cm三 分三厘ヲ増ス
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	436	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	440	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	437	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	441	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	438	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	439	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	439	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	440	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	440	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	441	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	441	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	442	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	442	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	443	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	443	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	444	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	444	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	445	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	445	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	446	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	446	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	447	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	447	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	448	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	448	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	449	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	449	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	450	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	450	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	451	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	451	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	452	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	452	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	453	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	453	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	454	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	454	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	455	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	455	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	456	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	456	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	457	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	457	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	458	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	458	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	459	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	459	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	460	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	460	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	461	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	461	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	462	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	462	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	463	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	463	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	464	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	464	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	465	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	465	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	466	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	466	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	467	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	467	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	468	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	468	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	469	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	469	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	470	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	470	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	471	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	471	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	472	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	472	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	473	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	473	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	474	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	474	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	475	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	475	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	476	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	476	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	477	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	477	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	478	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	478	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	479	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	479	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	480	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	480	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	481	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	481	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	482	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	482	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	483	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	483	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	484	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	484	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	485	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	485	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	486	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	486	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	487	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	487	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	488	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	488	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	489	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	489	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	490	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	490	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	491	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	491	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	492	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	492	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	493	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	493	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	494	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	494	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	495	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	495	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	496	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	496	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	497	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	497	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	498	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	498	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	499	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	499	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	500	同	同

用途	規格	寸法	番號	材種	修正	規格	寸法	番號	材種	備考
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	434	米楡		格子	1.85 <sup>m</sup>	438	米楡	幅ニ於テ1cm三 分三厘ヲ増ス
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	436	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	440	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	437	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	441	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	438	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	442	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	439	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	443	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	440	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	444	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	441	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	445	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	442	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	446	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	443	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	447	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	444	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	448	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	445	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	449	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	446	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	450	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	447	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	451	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	448	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	452	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	449	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	453	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	450	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	454	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	451	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	455	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	452	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	456	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	453	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	457	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	454	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	458	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	455	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	459	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	456	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	460	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	457	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	461	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	458	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	462	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	459	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	463	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	460	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	464	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	461	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	465	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	462	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	466	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	463	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	467	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	464	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	468	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	465	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	469	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	466	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	470	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	467	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	471	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	468	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	472	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	469	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	473	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	470	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	474	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	471	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	475	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	472	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	476	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	473	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	477	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	474	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	478	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	475	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	479	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	476	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	480	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	477	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	481	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	478	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	482	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	479	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	483	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	480	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	484	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	481	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	485	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	482	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	486	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	483	同		格子	1.85 <sup>m</sup>	487	同	同
格子	上	1.85 <sup>m</sup>	484							



ニ當博覽會文化村ニ我が東京木材問屋同業組合出品ノ小住宅ニ使用セラルル建具ノ内兩戸、格子戸、明硝子障子、腰高硝子戸、板戸等ハ總テ本寸法ノ材料ヲ以テ仕上ゲタルモノナルヲ參照セラレナバ其杞憂タルヲ知ラルベシ  
節ノ等級標本ハ勿論修正案ノ如ク四邊ノ計ニヨリ規格ヲ定メ最モ節ノ多キ面ヲ表シ陳列シタリ從ツテ他ノ面ハ以上優良ナルモノ又ハ無節材ナルハ明ラカナリ

第七分掌 審査報告

報告員審査官 和田 匡 夫

本分掌ニ屬スルモノハ第八十四類林産製品ノ内木炭、炭團、製炭法及炭窯模型ノ三種ニシテ木炭最多ク其ノ出品點數一千八百十二點ヲ占メ炭團二十六點、製炭法及炭窯模型一點ナリ以下各種類ニ就キ出品ノ狀況及審査ノ結果ヲ記述スベシ

木炭

木炭ハ東京府外三十一縣ヨリ出品セラレ其ノ總點數ノ内品種別ニスレバ白炭六二〇點、黑炭五六二點ナリ而シテ出品ノ最多カリシハ東京府ノ二百餘點ヲ推スベク其他ハ過ニ少ク又各府縣間ニハ其ノ出品振リニ冷熱ヲ異ニセルト各地必シモ代表的出品ト見ルベカラザルモノアルトノ爲ニ各地方ニ於ケル斯業ノ實勢ヲ窺ヒ難キモノナキニアラザリシモ概シテ云ヘバ優品多ク一般ニ進歩ノ迹ヲ認ムルニ足リ之ヲ前回ノ東京大正博覽會ニ比スレバ出品數過ニ多ク且優品ニ富ミ斯業ノ大勢ハ確ニ一進展ヲ示セリト謂フベシ府縣別出品數及擬賞數ヲ表示スレバ左ノ如シ

大分縣	云	一	二	五	九	三	六
宮崎縣	二	一	一	二	五	三	三
鹿兒島縣	三	一	一	二	六	八	四
計	九	三	一	四	二	六	三

即チ審査ノ結果賞ヲ擬セルモノ三百四十三點ヲ得出品人員ニ對シ受賞者三割四分餘ニ達セリ以テ優品多カリシヲ知ルニ足ル之ヲ概評スレバ今回ノ出品ニ於テ特ニ注目スベキハ多クノ府縣ガ製品ノ統一ノ改良セラレタルコト及其ノ製法ノ改良ノ原料木ノ集約ノ利用ト收炭率ノ増進ニ重キヲ措クノ傾向ヲ生ゼルコトニシテ即チ白炭、黑炭ヲ通ジテ原料木ハ樺、檜、櫻等以外ニ他ノ雜木又ハ枝條、末木等ヲ利用セルガ如キ又品柄ノ選別依裝量目ノ一定ニ力ヲ注グル等大ニ見ルベキモノアリテ事業經營ノ狀態著シク面目ヲ改メタルヲ認ム然レドモ製炭技術ニ至テハ各地甚シク優劣ヲ異ニシ今猶白炭ニ立消、爆火アルモノ、黑炭ニ燻煙アルモノ、輕軟ニ過グルモノ等製法上ノ缺點ヲ具フルモノ尠カラズ、是等ハ夙ニ改良スベキモノタルニ拘ラズ舊態依然タルハ寧ろ意外トスルトコロナリ其ノ他依裝ニ於テモ出品ノ爲ニ特ニ美裝ヲ凝セルモノ若クハ醜惡見ルニ堪ヘザル亂儀ヲ散見セルガ如キ強テ批難スベキニアラザルモ少クトモ商品トシテ用意ヲ缺ケルモノタルヲ失ハズ要スルニ今回ノ出品ハ優品意外ニ多カリシモ劣等品亦尠カラズ一般ニ製炭技術ニ於テ猶ホ改良ノ餘地ナキヲ認メタリ

各府縣中群ヲ按キテ優品多カリシハ白炭ニ在リテハ和歌山、宮崎ノ二縣、黑炭ニ在リテハ千葉茨城ノ二縣ニシテ何レモ先進地トシテ夙ニ名アリ其ノ出品物ノ殊ニ優秀ナリシハ偶然ナラズト謂フベク其ノ他府縣ニ於テモ優品少カラズト雖前記四縣ニ比スレバ過ニ遜色アリ中ニ就キ榊

府縣名	出品人員	出品點數	名譽	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	計	出品人員對百分比
東京府	一	二	一	一	一	一	一	五	三〇
神奈川縣	八	九	一	一	一	一	一	五	二八
新潟縣	二	三	一	一	一	一	一	五	二〇
埼玉縣	三	四	一	一	一	一	一	五	二二
群馬縣	四	五	一	一	一	一	一	五	二四
千葉縣	五	六	一	一	一	一	一	五	二六
茨城縣	六	七	一	一	一	一	一	五	二八
栃木縣	七	八	一	一	一	一	一	五	三〇
愛知縣	八	九	一	一	一	一	一	五	三二
靜岡縣	九	一〇	一	一	一	一	一	五	三四
山梨縣	一〇	一一	一	一	一	一	一	五	三六
岐阜縣	一一	一二	一	一	一	一	一	五	三八
長野縣	一二	一三	一	一	一	一	一	五	四〇
富山縣	一三	一四	一	一	一	一	一	五	四二
石川縣	一四	一五	一	一	一	一	一	五	四四
福井縣	一五	一六	一	一	一	一	一	五	四六
山形縣	一六	一七	一	一	一	一	一	五	四八
青森縣	一七	一八	一	一	一	一	一	五	五〇
岩手縣	一八	一九	一	一	一	一	一	五	五二
福島縣	一九	二〇	一	一	一	一	一	五	五四
宮城縣	二〇	二一	一	一	一	一	一	五	五六
長野縣	二一	二二	一	一	一	一	一	五	五八
山梨縣	二二	二三	一	一	一	一	一	五	六〇
岐阜縣	二三	二四	一	一	一	一	一	五	六二
長野縣	二四	二五	一	一	一	一	一	五	六四
富山縣	二五	二六	一	一	一	一	一	五	六六
石川縣	二六	二七	一	一	一	一	一	五	六八
福井縣	二七	二八	一	一	一	一	一	五	七〇
山形縣	二八	二九	一	一	一	一	一	五	七二
青森縣	二九	三〇	一	一	一	一	一	五	七四
岩手縣	三〇	三一	一	一	一	一	一	五	七六
福島縣	三一	三二	一	一	一	一	一	五	七八
宮城縣	三二	三三	一	一	一	一	一	五	八〇
長野縣	三三	三四	一	一	一	一	一	五	八二
山梨縣	三四	三五	一	一	一	一	一	五	八四
岐阜縣	三五	三六	一	一	一	一	一	五	八六
長野縣	三六	三七	一	一	一	一	一	五	八八
富山縣	三七	三八	一	一	一	一	一	五	九〇
石川縣	三八	三九	一	一	一	一	一	五	九二
福井縣	三九	四〇	一	一	一	一	一	五	九四
山形縣	四〇	四一	一	一	一	一	一	五	九六
青森縣	四一	四二	一	一	一	一	一	五	九八
岩手縣	四二	四三	一	一	一	一	一	五	一〇〇
福島縣	四三	四四	一	一	一	一	一	五	一〇二
宮城縣	四四	四五	一	一	一	一	一	五	一〇四
長野縣	四五	四六	一	一	一	一	一	五	一〇六
山梨縣	四六	四七	一	一	一	一	一	五	一〇八
岐阜縣	四七	四八	一	一	一	一	一	五	一一〇
長野縣	四八	四九	一	一	一	一	一	五	一一二
富山縣	四九	五〇	一	一	一	一	一	五	一一四
石川縣	五〇	五一	一	一	一	一	一	五	一一六
福井縣	五一	五二	一	一	一	一	一	五	一一八
山形縣	五二	五三	一	一	一	一	一	五	一二〇
青森縣	五三	五四	一	一	一	一	一	五	一二二
岩手縣	五四	五五	一	一	一	一	一	五	一二四
福島縣	五五	五六	一	一	一	一	一	五	一二六
宮城縣	五六	五七	一	一	一	一	一	五	一二八
長野縣	五七	五八	一	一	一	一	一	五	一三〇
山梨縣	五八	五九	一	一	一	一	一	五	一三二
岐阜縣	五九	六〇	一	一	一	一	一	五	一三四
長野縣	六〇	六一	一	一	一	一	一	五	一三六
富山縣	六一	六二	一	一	一	一	一	五	一三八
石川縣	六二	六三	一	一	一	一	一	五	一四〇
福井縣	六三	六四	一	一	一	一	一	五	一四二
山形縣	六四	六五	一	一	一	一	一	五	一四四
青森縣	六五	六六	一	一	一	一	一	五	一四六
岩手縣	六六	六七	一	一	一	一	一	五	一四八
福島縣	六七	六八	一	一	一	一	一	五	一五〇
宮城縣	六八	六九	一	一	一	一	一	五	一五二
長野縣	六九	七〇	一	一	一	一	一	五	一五四
山梨縣	七〇	七一	一	一	一	一	一	五	一五六
岐阜縣	七一	七二	一	一	一	一	一	五	一五八
長野縣	七二	七三	一	一	一	一	一	五	一六〇
富山縣	七三	七四	一	一	一	一	一	五	一六二
石川縣	七四	七五	一	一	一	一	一	五	一六四
福井縣	七五	七六	一	一	一	一	一	五	一六六
山形縣	七六	七七	一	一	一	一	一	五	一六八
青森縣	七七	七八	一	一	一	一	一	五	一七〇
岩手縣	七八	七九	一	一	一	一	一	五	一七二
福島縣	七九	八〇	一	一	一	一	一	五	一七四
宮城縣	八〇	八一	一	一	一	一	一	五	一七六
長野縣	八一	八二	一	一	一	一	一	五	一七八
山梨縣	八二	八三	一	一	一	一	一	五	一八〇
岐阜縣	八三	八四	一	一	一	一	一	五	一八二
長野縣	八四	八五	一	一	一	一	一	五	一八四
富山縣	八五	八六	一	一	一	一	一	五	一八六
石川縣	八六	八七	一	一	一	一	一	五	一八八
福井縣	八七	八八	一	一	一	一	一	五	一九〇
山形縣	八八	八九	一	一	一	一	一	五	一九二
青森縣	八九	九〇	一	一	一	一	一	五	一九四
岩手縣	九〇	九一	一	一	一	一	一	五	一九六
福島縣	九一	九二	一	一	一	一	一	五	一九八
宮城縣	九二	九三	一	一	一	一	一	五	二〇〇
長野縣	九三	九四	一	一	一	一	一	五	二〇二
山梨縣	九四	九五	一	一	一	一	一	五	二〇四
岐阜縣	九五	九六	一	一	一	一	一	五	二〇六
長野縣	九六	九七	一	一	一	一	一	五	二〇八
富山縣	九七	九八	一	一	一	一	一	五	二一〇
石川縣	九八	九九	一	一	一	一	一	五	二一二
福井縣	九九	一〇〇	一	一	一	一	一	五	二一四
山形縣	一〇〇	一〇一	一	一	一	一	一	五	二一六
青森縣	一〇一	一〇二	一	一	一	一	一	五	二一八
岩手縣	一〇二	一〇三	一	一	一	一	一	五	二二〇
福島縣	一〇三	一〇四	一	一	一	一	一	五	二二二
宮城縣	一〇四	一〇五	一	一	一	一	一	五	二二四
長野縣	一〇五	一〇六	一	一	一	一	一	五	二二六
山梨縣	一〇六	一〇七	一	一	一	一	一	五	二二八
岐阜縣	一〇七	一〇八	一	一	一	一	一	五	二三〇
長野縣	一〇八	一〇九	一	一	一	一	一	五	二三二
富山縣	一〇九	一〇	一	一	一	一	一	五	二三四
石川縣	一〇	一一	一	一	一	一	一	五	二三六
福井縣	一一	一二	一	一	一	一	一	五	二三八
山形縣	一二	一三	一	一	一	一	一	五	二四〇
青森縣	一三	一四	一	一	一	一	一	五	二四二
岩手縣	一四	一五	一	一	一	一	一	五	二四四
福島縣	一五	一六	一	一	一	一	一	五	二四六
宮城縣	一六	一七	一	一	一	一	一	五	二四八
長野縣	一七	一八	一	一	一	一	一	五	二五〇
山梨縣	一八	一九	一	一	一	一	一	五	二五二
岐阜縣	一九	二〇	一	一	一	一	一	五	二五四
長野縣	二〇	二一	一	一	一	一	一	五	二五六
富山縣	二一	二二	一	一	一	一	一	五	二五八
石川縣	二二	二三	一	一	一	一	一	五	二六〇
福井縣	二三	二四	一	一	一	一	一	五	二六二
山形縣	二四	二五	一	一	一	一	一	五	二六四
青森縣	二五	二六	一	一	一	一	一	五	二六六
岩手縣	二六	二七	一	一	一	一	一	五	二六八
福島縣	二七	二八	一	一	一	一	一	五	二七〇
宮城縣	二八	二九	一	一	一	一	一	五	二七二
長野縣	二九	三〇	一	一	一	一	一	五	二七四
山梨縣	三〇	三一	一	一	一	一	一	五	二七六
岐阜縣	三一	三二	一	一	一	一	一	五	二七八
長野縣	三二	三三	一	一	一	一	一	五	二八〇
富山縣	三三	三四	一	一	一	一	一	五	二八二
石川縣	三四	三五	一	一	一	一	一	五	二八四
福井縣	三五	三六	一	一	一	一	一	五	二八六
山形縣	三六	三七	一	一	一	一	一	五	二八八
青森縣	三七	三八	一	一	一	一	一	五	二九〇
岩手縣	三八	三九	一	一	一	一	一	五	二九二
福島縣	三九	四〇	一	一	一	一	一	五	二九四
宮城縣	四〇	四一	一	一	一	一	一	五	二九六
長野縣	四一	四二	一	一	一	一	一	五	二九八
山梨縣	四二	四三	一	一	一	一	一	五	三〇〇
岐阜縣	四三	四四	一	一	一	一	一	五	三〇二
長野縣	四四	四五	一	一	一	一	一	五	三〇四
富山縣	四五	四六	一	一	一	一	一	五	三〇六
石川縣	四六	四七	一	一	一	一	一	五	三〇八
福井縣	四七	四八	一	一	一	一	一	五	三一〇
山形縣	四八	四九	一	一	一	一	一	五	三一二
青森縣	四九	五〇	一	一	一	一	一	五	三一四
岩手縣	五〇	五一	一	一	一				



僅二十五點ニ過ギザルモ何レモ優品ナルニ加フルニ總テ質量五貫目ヲ以テ一定ノ依裝トシ從來改良困難トセラレタル八貫依ヲ市場ノ最歡迎スル五貫依ニ改定シタルハ大ニ賞スベク強テ非難スレバ輕白炭ニ偏セルコト及依裝ノ美裝ニ過グルコトナルモ商品トシテノ用意ト産額ノ豐富トヲ示セルノ點ニ於テ要ヲ得タルモノト認ム兒湯郡下穂北村大木虎之助出品ハ品質最優リ金牌賞ヲ受ク其ノ他銀牌一、銅牌一、褒狀二ノ受賞者アリ

千葉縣 白炭二十四點黑炭四十四點ヲ出シ優品乏シカラズ殊ニ佐倉炭ノ本場トシテ櫛黒炭ノ優秀ナルヲ見ル同縣ハ近時原料林ノ缺乏ヲ訴ヘ佐倉炭ノ産出漸ク衰減ニ歸セムトスルノ狀アリ然モ今回ノ出品ニ本場物ノ名ニ耻ヂザルモノ尠カラザルヲ見タルハ意ヲ強フルニ足ル夷隅郡上瀑村秋葉治三郎ノ出品ハ殊ニ優秀ニシテ金牌ヲ受ク其ノ他銀牌二銅牌五、褒狀九ニ該當スル優品ヲ出セリ同縣出品ノ見苦シカリシハ依裝ノ不統一ニシテ中ニハ外觀ノ異様ニ加フルニ内容ノ量目ヲ知り難キモノ數點アリ製法ニ於テ多ク間然スル所ナキモ調整上ニ至テハ未ダ改良ノ實舉ラザルヲ證スルモノト謂フベシ

茨城縣 白炭八點黑炭三十三點ヲ出シ其ノ黑炭ハ優品揃ニシテ他府縣ノ企及スベカラザルノ概ヲ示セリ由來同縣ハ所謂佐倉炭トシテ其ノ産額ト聲價トニ於テハ過ニ千葉縣ノ上ニ在リ優品ノ多キ偶然ナラズト謂フベシ唯今回ノ出品中黒炭ハ櫛炭ノ一種ニ限リ他ノ雜木炭ヲ出サズ製炭技術ヲ疑ハシムルモノアリタルハ惜ムベシ白炭ハ櫛、樫ノ原料トスルモノ數點ヲ出ダセルモ評スルニ足ラズ東茨城郡桶村長島熊太郎出品ハ金牌ヲ其ノ他銀牌一、銅牌五、褒狀八ノ受賞者ヲ出ダセリ  
靜岡、高知、栃木、大分ノ四縣ハ今回ノ出品ニ出色ノモノヲ見ズ頗ル

ルモ中ニ白炭ヲ強ヒテ角依ト爲セルモノアルハ謬レルノ甚シキモノトス、埼玉縣ハ同縣同業組合地區内ノ出品ハ依裝一定品質亦優レルモ入間郡出品ハ著シク見劣リタリ、山梨縣ハ概シテ依裝亂雜品質亦不良ナルモ北都留郡出品中雜木黒炭ノ優良ナルモノ一點アリタルハ珍トスベシ、宮城縣ハ黒炭ノ出品多ク改良ノ迹ヲ認ムルニ難カラザルモ其ノ多クハ燻烟アルモノ又ハ質輕軟ニ過グルモノナリシハ惜ムベシ  
巖手縣ハ黒炭白炭トモ品質ニ忌ムベキ缺點ナキモ之ヲ他ノ優品ニ比スレバ猶遜色ナキヲ得ズ唯黒炭ノ櫛割ハ同縣ノ特産トシテ推獎ノ價値アルベシ尙同縣ノ木炭ニ特筆スベキハ依裝量目ノ一定セルコトナリ是縣營ニ依リ木炭ノ移出検査ヲ施行セル結果ニ外ナラザルベク其ノ出品物ニ品種、量目ヲ表記セル検査票ヲ結付セルハ觀者ヲシテ信頼ノ念ヲ起サシムルニ足ル由來同縣ハ木炭ノ産額全國第一位ヲ占メ又東京横濱市場ニ於ケル木炭ノ主要産地トシテ聞エタリ然ルニ從來往々ニシテ粗製濫造ノ弊ヲ傳ヘラレ縣ハ之ガ矯正ニ苦心營ナラズト雖容易ニ目的ヲ達スル能ハズ終ニ大正十年九月一日ヨリ縣經營ニ依リ木炭ノ移出検査ヲ斷行スルコトトナレリ實施後未ダ一年ナラザルニ效果顯ハレ往年ノ弊風其ノ迹ヲ絶チ近時著シク聲價ヲ發揚スルニ至レリト云フ他府縣ニ未ダ其ノ例ヲ見ザル所ニシテ嘆賞ニ値ス冀クハ之ヲシテ將來益々徹底セシムルト同時ニ製炭法ニ一層ノ力ヲ注ガムコトヲ望ム其他ノ縣ハ特ニ評スベキモノナク改良ニ一段ノ努力ヲ望マザルヲ得ズ

神奈川、愛知、岐阜、長野、青森、秋田、福井、富山、鳥取、島根、岡山、廣島、山口、鹿兒島ノ十四縣ハ見ルベキ優品少ク其ノ最優品ニシテ銅牌以下ノ賞格ニ該當スルニ過ギザリキ中ニ就キ愛知縣ハ八名郡出品中較々秀テタル白炭アリタルモ同地方産トシテ代表的ト見ル能ハ

失望セリ即チ靜岡縣ハ出品數五十八點(白二十二、黒炭三十六)ニシテ相當出品アリシモ前記四縣ニ匹敵スルノ優品ヲ見ザリシノミナラズ依裝ノ亂雜不統一ナリシハ寧ろ意外ナリ、高知縣ハ關西地方ニ於ケル白炭ノ産地トシテ聞エタルモ今回ノ出品僅ニ十點ニ過ギザルト見ルベキノ優品ナカリシ、栃木縣ハ佐倉炭ノ産地トシテ茨城縣ニ讓ラザル名聲アルモ今回ノ出品三十五點(白炭四、黒炭三十一)中出色ノモノヲ見ズ大分縣ハ白炭ノ産地トシテ九州地方ニ於テ官崎縣ト聯ビ稱セラレ今回ノ出品二十六點中見ルベキ優品アリシモ特ニ改良セル點ナク最優ニ値ヒスルモノナカリシハ惜ムベシ

東京、新潟、埼玉、群馬、山梨、宮城、福島、巖手、山形、徳島ノ十府縣ハ相當優品ヲ出シ何レモ銀牌賞ノ選ニ入レルモノアリ其賞格ニ於テ他ニ一籌ヲ輸シタルハ出品物ノ品質品位ニ多少ノ缺點アリタルニ過ギズシテ甚シキ優劣アルニ非ズ何レモ改良ノ實舉レルヲ認ムルニ難カラズ努メテ已マザルニ於テハ將來ノ發展ヲ期待スルニ足ル中ニ就キ東京府ハ出品最多ク優品亦少カラズ北豐島郡南多摩郡出品ノ黒炭中所謂佐倉炭ノ優秀ナルモノアリタルハ特筆スルニ足ル、八丈島、伊豆七島ノ出品ハ品質ニ於テハ未ダ優良ヲ誇ルニ足ラザルモ普通商品トシテ十分ノ價値ヲ有ス唯八丈島出品ハ依裝過大ニシテ都會地ノ嗜好ニ適セザルノ感ナキヲ得ズ、市内出品ハ多ク販賣業者ノ出品ニ係リ其ノ出品物ハ何レモ特色アルモノニシテ觀者ヲ裨益シタルコト多大ナルヲ認ム尙之ヲ共同出品トシ特ニ陳列ニ意ヲ用ヒタルハ當ヲ得タルモノトス唯惜ムベキハ出品者ノ取引關係ヲ示スノ方法ニ何等考案セラレズ單ニ産地同様に出品ヲ爲セルニ止リタルハ要ヲ得タリト謂フベカラズ新潟縣ハ東蒲原郡佐渡郡ノ白炭ニ較優品アリ又同郡ノ出品ハ品位依裝略ホ一定セ

ズ殊ニ依裝醜惡ナリシハ一層見劣リタリ、長野縣ハ出品多カリシモ優品乏シキト依裝ノ粗惡ナリシハ目立チタリ、山口縣ハ依裝、量目ノ一定セル點大ニ賞スベキモ品質ニ至テハ缺點アルモノ多ク殊ニ黒炭ノ殆ンド全部ガ燻烟アリタルニハ失望セリ、岡山縣ハ品質ニ缺點アルコト山口縣ト相似タルノミナラズ依裝ノ雜然タルト角依ノ調整ヲ謬レルモノアリタルハ更ニ見苦シカリシ廣島縣ハ品質ニ於テハ較々優レルモ依裝ニ於テハ岡山縣同様非難スベキモノアリタルハ惜ムベシ其他ノ縣ハ出品尠ク特ニ評スベキモノナシ

炭團

炭團ハ出品點數二十六點人員十三人ニシテ内東京市最多キヲ占メ其ノ他巖手、福井、和歌山、長野、愛知ノ五縣ヨリ各一人ノ出品者アリ審査ノ結果賞ヲ擬セルモノ六點其ノ内銀牌二、(東京)、銅牌三(東京二岩手一)、褒狀一(福井)ナリトス而シテ銀牌ニ該當セルモノハ審査項目中殊ニ保火、熱量、強度ニ優リ銅牌以下ノ選ニ入レルモノハ熱量ニ於テ劣レルモ強度及保火ニ優レルヲ見何レモ製法ノ進歩著シキヲ認ム其他ハ強度、保火著シク劣リ賞ヲ擬スルニ足ラズ中ニ就キ和歌山縣出品ノ調平炭ト稱セルモノハ原料ニ粗殼ヲ燻燒セルモノヲ用ヒタルノ點注目ニ値セルモ其ノ品質ニ見ルベキモノナク殊ニ燻烟ノ缺點アリ實用上ノ價値ヲ認ムル能ハザリシハ惜ムベシ

製炭法及炭窯模型

本品ハ廣島縣山林會ノ出品ニ係リ審査ノ結果銅牌ニ擬セリ本製炭法ハ長野式製炭法及簡易伏燒法ヲ説述セルモノニテ在來ノモノニ比シ炭窯法ニ幾多ノ特色ヲ有シ收炭率高ク其ノ他生産費ヲ低減スル點ニ於テ考案宜シキヲ得タルモノト認ム惜ムラクハ未ダ實驗淺ク之ガ應用ノ適否



ヲ速断シ難キモノアリ尙十分ノ實驗ヲ積ミ其眞價ヲ發揮セムコトヲ望ム炭窯模型亦見ルベク觀覽者ノ眼ヲ惹キタルヲ疑ハズ山林會ガ斯種有益ナル新案ヲ世ニ紹介セルハ洵ニ當ヲ得タリト謂フベシ

擬賞一覽表

品名	出品人員數	出品點數	名譽	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	計
木炭	九八	一、八二	一	四	六	三六	三三	三九九
炭團	三	三	一	二	三	一	六	一〇六
製炭法及炭窯模型	一	一	一	一	一	一	一	一〇〇
計	九八	一、八二	一	四	六	三六	三三	三九九

第八分掌 審査報告

報告員審査官 三村鐘三郎

本分掌ハ第八十四類中木炭及炭團以外ノ審査ヲ掌リ其ノ審査方針ハ出品ノ品質ヲ主トシ其ノ業績ヲ参照セリ之レ此ノ分掌ニ屬スル出品ハ單ニ其ノ品質ノ優良ナルヲ以テ足レリトセズ其ノ生産費ハ小ニ其ノ産額ハ大ナルヲ要トスルニ係ラズ博覽會共進會或ハ品評會ニハ一粒選ノモノヲ出品シテ以テ優良ノ賞ヲ贏チ得ントスルモノ尠ナカラザルニヨル本分掌ニ屬スル出品ハ五百四十五點其ノ出品人員四百四十九人ニシテ三十一種ヨリナリ椎茸ノ百六十九點百八十三人ヲ最多トシ五倍子六十人六十點、棕桐皮ノ三十人三十點之ニ次ギ纖維原料、松脂烏糖ノ一人一點ヲ最少トス事業成績書ハ合資會社新田帶革製造所十勝製鐵工場及朝鮮濟州島樺島久治氏ノ出品各一點ノミナリ

出品物品名	出品人員數	出品點數	名譽	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	計
椎茸	一六九	一八三	一	三	六	三三	三三	七〇
木炭	九八	一、八二	一	四	六	三六	三三	三九九
炭團	三	三	一	二	三	一	六	一〇六
製炭法及炭窯模型	一	一	一	一	一	一	一	一〇〇
計	九八	一、八二	一	四	六	三六	三三	三九九

府縣名	出品人員數	出品點數	名譽	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	計	出品人員百分比
府縣名	出品人員數	出品點數	名譽	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	計	出品人員百分比
東京府	七	七	一	一	一	一	一	四	一四・四
神奈川縣	二	二	一	一	一	一	一	三	七・六
新潟縣	二	二	一	一	一	一	一	三	七・六
埼玉縣	一	一	一	一	一	一	一	三	七・六
群馬縣	三	三	一	一	一	一	一	四	一〇・〇
千葉縣	一	一	一	一	一	一	一	三	七・六
栃木縣	一	一	一	一	一	一	一	三	七・六
奈良縣	一	一	一	一	一	一	一	三	七・六
愛知縣	七	七	一	一	一	一	一	四	一〇・〇
靜岡縣	五	五	一	一	一	一	一	四	一〇・〇
岐阜縣	三	三	一	一	一	一	一	三	七・六
長野縣	三	三	一	一	一	一	一	三	七・六
宮城縣	三	三	一	一	一	一	一	三	七・六
福島縣	五	五	一	一	一	一	一	四	一〇・〇
山形縣	四	四	一	一	一	一	一	三	七・六
福井縣	七	七	一	一	一	一	一	四	一〇・〇
鳥取縣	三	三	一	一	一	一	一	三	七・六
島根縣	三	三	一	一	一	一	一	三	七・六
岡山縣	三	三	一	一	一	一	一	三	七・六
廣島縣	三	三	一	一	一	一	一	三	七・六
山口縣	三	三	一	一	一	一	一	三	七・六
和歌山縣	三	三	一	一	一	一	一	三	七・六
香川縣	三	三	一	一	一	一	一	三	七・六
大分縣	三	三	一	一	一	一	一	三	七・六
宮崎縣	三	三	一	一	一	一	一	三	七・六
鹿兒島縣	三	三	一	一	一	一	一	三	七・六
朝鮮總督府	一	一	一	一	一	一	一	三	七・六
臺灣總督府	一	一	一	一	一	一	一	三	七・六
北海道廳	四	四	一	一	一	一	一	三	七・六
計	四九	五五	一	一	一	一	一	四	一〇・〇

業鳥抹  
績績績  
計計計

斯ノ如ク名譽賞牌一點金牌三點銀牌十三點銅牌五十三點褒狀一百七點ヲ擬賞セシ理由ノ概要ヲ述ンニ

因形單寧及其ノ製造業績書ハ合資會社新田帶革製造所、十勝製鐵工場ヨリ出品セリ、由來單寧ハ「エキス」トナスコト既ニ困難ナリ況ンヤ固形トナスニ於テオヤ而カモ單寧資材ノ輸送ハ費ス處甚ダ大ナルヲ以テ近來之レヲ「エキス」トナスニ至リタルモ其ノ輸送中動搖ノ爲ニ容積ヲ增加シ往々噴出スルコトアリテ不便尠カラズ茲ニ於テ同社ハ之レヲ固形單寧トスルコトニ苦心シ漸クニ成功シ特許ヲ得ルニ至レリ而カモ尙ホ之レヨリ大ナル功績ハ備林制ノ設定ニアリ蓋シ林產物ノ原料トナス工業ハ備林制ニ依ルニアラザレバ其ノ事業ヲ永續シ難キハ當然トス之レ其ノ工業ノ企圖セラルル迄ハ其ノ目的トスル附近ノ森林ハ利用ノ途ナク隨ツテ鬱蒼タリト雖一度斧鉞ノ之レニ入ルヤ忽ニシテ荒涼タル原野ニ化スルノミナラズ再ビ原料ノ供給地タルコト殆ドアルナシ故ニ所要原料ノ大部ヲ年々供給スル森林ヲ備ヘテ永遠ノ策ヲ講ジ併セテ附近ノ森林ヲ牽制シ指導スルヲ要スルニ拘ハラズ本邦ノ化學工業ニシテ指ヲ之レニ染ムルモノ殆ドアルナク爲ニ事業正ニ緒ニ就カントシテ原料ノ缺乏ニ苦ムモノ比々皆然リ然ルニ同社ハ殆ド無限ノ供給力アリト思惟サレタル北海道ノ備林ヲ目的トシテ單寧「エキス」製造事業ヲ十勝ニ興シタルニ其ノ原料ノ消盡意外ニ速ナルニ驚キ一轉シテ備林制ニ思フ擬ラシ既ニ三萬町歩ノ備林ヲ購入シ四十年ヲ更新期トシ尙ホ備林ノ面積ヲ減ズル一策トシテ從來樹皮ノミナ原料トシタル慣習ヲ破リ強力



ノ粉碎器ヲ用イテ小幹枝極ヲ粉碎シテ材皮ヲ共ニ用ユルガ如キ原料ノ持續ニ苦心スルノ跡歴々トシテ明カニ之レ林業上賞賛措ク能ハザル點ナリトス、次ニ同所ノ業績書ヲ掲ゲン

樹液エキス解説書

合資會社新田帶革製造所十勝製糖工場

當社事業ノ系統概略

合資會社 新田帶革製造所  
合資會社 新田ベニヤ製造所  
合資會社 帶革及製糖事業  
ベニヤ板製造事業  
資本金 金六百萬圓也  
金五拾萬圓也

當社ハ明治十八年帶革製造事業ヲ開始以來銳意製品ノ改良事業ノ發展ヲ圖リタル結果全ク外國ヨリ輸入ヲ防遏シ進ンデ海外ニ輸出スルニ至リタルハ已ニ世ノ認ムル所ナリ

固形タンニンダエキス製造開始

而シテ製革事業上必要缺クベカラザル樹液即チタンニンダ材料タル樹類ハ内地ニ於テ其供給漸ク缺乏セルト共ニ歐米諸國ヨリ漸次輸入セラルル事ト成レリ。當社之ヲ憂ヒ明治四十年十勝國止若驛ニ製糖工場ヲ設ケ其ノ製造法ニ一新紀元ヲ畫シタリ即チ從來我國ニ於テ製造セラレタル「液體タンニンダ」ニテハ種々ノ不便利多キヲ以テ苦心研究ノ結果遂ニ外國製品ヲ凌駕スル優秀ナル「固形タンニンダエキス」ヲ「クト」ヲ完製スルニ至レリ。

樹液エキス採取法ノ發見

北海道ニ於ケル樹液漸ク缺乏スルヤ之ガ救済ノ必要上從來ノ樹液ノ採取法「タンニンダ」採取方法ニ一大改革ヲ施シ遂ニ

樹液エキス採取法ヲ發見シ特許ヲ得タリ

之ニ依レバ僅ニ從來ノ約十分ノ一ノ面積ノ立木ヲ以テ同量ノ「タンニンダ」ノ製品ヲ得ルニ至レリ

ベニヤ板製造事業ノ開始

軍用飛行機用及建築用材トシテ

從來我國ニ於テ軍用飛行機用ベニヤ板ノ製造力甚ダ少キト共ニ軍器ノ獨立ヲ助成スル必要上且亦一般建築界ニ顧ミラレザリシ雜木ヲ利用シ美術的ニシテ且強靱ナル室内裝飾用板ヲ最モ低廉ノ價格ニテ市場ニ供給スル目的ヲ以テ大正八年十勝國止若驛製糖工場隣接地ニベニヤ製造工場ヲ設ケ米國ヨリ完備セル最新式機械ヲ買ヒ入レ、大正九年製造ヲ開始シ其製造力及製品ノ優秀ナル東洋ニ於ケル唯一ノ工場タルニ至レリ上記各項ニ關スル要點ノ詳細ハ次ニ記セリ

解説書

一、製造地場所建物

北海道十勝國中川郡嘉別村大字止若村

建物	煉瓦建	一棟	五〇坪
ボイラー室	木造	同	九〇坪
同	煉瓦建	同	二四坪
ポンプ室	木造	同	三〇坪
機關室	同	同	二一〇坪
第一造工場	煉瓦建	同	七七坪
第二同	同	同	一〇五坪
第三同	同	同	一三五坪
第四同	木造	同	同

第五造工場	木造	木造	一〇八坪
乾燥室	煉瓦建	一棟	八一坪
營繕工場	木造	同	一六八坪
木工場	同	同	一二六坪
倉庫	同	六棟	四五四坪
事務所	煉瓦建	一棟	六〇坪
揚水場	木造	同	三四坪
休憩所	同	同	一八坪
門衛	同	同	四五坪
俱樂部	同	同	五四坪
廠舎	同	二棟	七二坪
社宅	同	一九棟	八八四坪
計	同	四四棟	二・七八四・五坪

一、原料産地品種  
十勝國一圓ニ繁茂セル榲桲ヲ伐採シテ榲桲材トシ是レヲ原料ニ供ス  
一、製造用品及機械器具類  
原動機ノ種類及馬力數

ランカシヤボイラー	三臺	二〇〇馬力
ヴァブコツク水管式ボイラー	一臺	二〇〇同
蒸汽機關	同	七五同
ガスエンジン	二臺	二四七同
發電機	同	一三五キロ
電動機	九臺	四七五馬力

製造用機械及設備

粉碎機	二臺
新田式浸出罐	六臺
濾過機	三臺
真空蒸發罐	四臺
浸出桶	八箇
製氷機	一臺
冷却機	二臺
真空ポンプ	一臺
ウオシントン及ヒユガルポンプ	一五臺
タービンポンプ	一臺
大丸鋸六十吋	同
中丸鋸三十吋	同
小丸鋸二十五吋	同
吊下鋸三十吋	同
横切鋸三十吋	同
鋸目立機	同
旋盤	三臺
シエーピングマシン	一臺
ボールドカツター	同
ボール盤	二臺
ベルトハンマー	一臺
木工旋盤	同
蒸汽ポンプ	同
消火栓	一二基

五四七



一、製造方法順序

- 一、粉碎(三方七寸長サ二尺七寸ノ櫛材ヲ一寸位ノ細片ニ粉碎ス)
- 二、浸出(本社苦心研究ノ結果發明セル新田式櫛木質浸出装置ニヨリ高壓高熱ヲ加ヘ浸出ス)
- 三、濾過(皮革用ノ「エキス」トナルベキ液ハ濾過機ニ掛ケ濾過シ不純物ヲ除去ス但染料用ハ濾過セズ)
- 四、如上ノ順序ヲ經テ來レル液ヲ真空罐内ニ於テ水分ヲ蒸發シ「固形エキス」トナス

一、沿革

製革事業ニ必要缺ク可カラザルモノハ液即チ鞣材ノ一タル櫛樹ヨリ得タル液ニシテ其原料タル櫛樹樹根樹等ハ内地山林ニモ繁茂セシガ製革業ノ發達ト漁網用等ノ需用増加ト共ニ漸次缺乏ヲ來シ明治二十五年頃ヨリ米國ニテ「タンバーク」佛國及獨逸ニテ「エキストラクト」マレー半島ヨリ「マンダローブ」等ヲ輸入シ其缺ヲ補フニ至レリ我社ハ初メ關西地方ニテ是等原料ヲ採取セシガ茲ニ發奮シテタ張線三川ニテ櫛皮採取ヲ始メタリ然レドモ其山林區域狭小ニシテ永久事業ノ計畫ハ出來難キヲ以テ明治四十年十勝國芽室ニ出張所ヲ設ケ之レガ採收並ニ買入ヲ開始シ翌四十一年釧路線全通ト共ニ大ニ事業ノ擴張ヲ計レリサレバ古來人跡ヲ止メザリシ芽室地方ハ直ニ數百ノ移民ヲ誘致シ今ヤ一小市街ヲ爲スニ至レリ斯クテ出張所ハ清水新得帶廣止若ト各地ニ新設セラレ内地ヨリ年々多數ノ人夫ヲ招致セシメ櫛皮採取ト同時ニ拓殖ニ資スル所多カリキ

斯ノ如クシテ我社ハ全然輸入單寧材料ヲ排シテ十勝產櫛樹皮ヲ使用スルコトトナリタレドモ此北海道ヨリ嵩張レル櫛皮ヲ大阪ニ移送ス

輪代ニテ之ヲ行フモノニシテ年々ノ伐採跡地ニハ新植ヲ行ヒ常ニ全社

有林ノ四十分ノ三十九ノ面積ニハ二年生ヨリ四十年生或ハ一年生ヨリ

三十九年生迄ノ林木ヲ有スル林相ヲ維持シツツアリ

- 一、製品數量價格販路
- 製造高
- 大正四年 三十五萬貫
- 同 五年 四十五萬貫
- 同 六年 六十萬貫
- 同 七年 三十萬貫
- 同 八年 二十二萬貫
- 同 九年 二十二萬貫
- 大正十年 二十四萬貫

販路

本社製品櫛造エキスハ主トシテ鞣劑トシテノミ使用セラレシガ近來漁網染料及一般絹絲染料トシテ歡迎セラレ前者ハ道内各地ノ漁場ニ後者ハ内地各地殊ニ米澤地方ノ機業家ニ需要多ク好評ヲ博シ居レリ鞣劑用所謂皮革用エキスハ當社大阪本社ノミ供給シ他ニ販賣ノ餘力ヲ有セズ價格一ホンド貳拾錢乃至貳拾五錢ナリ染料用ノエキスハ上述ノ如ク道内ノ漁場及内地ノ機業地ノ需要ニ應ジ價格ハ一ホンド拾八錢乃至貳拾錢ヲ以テ目下ノ相場トス

一、効用褒賞審査請求主眼

本固形エキスハ液體エキスニ比シ其タンニン含有量多ク且運搬、使用、貯藏ニ便利ニシテ又液體エキスノ如ク防腐劑ノ必要更ニナ

ルノ經濟上其他ノ損失並ニ不便多キヲ以テ日露戰爭以前ヨリ苦心研究ニ成功セル固形液「エキス」ノ製造ヲ計畫シ明治四十二年約七千町歩ノ山林賣拂ヲ受ケタルヲ以テ永久事業トシテ地ヲ止若ニ定メ工事ニ着手シ茲ニ「タンニン」工場トシテ永久ノ基礎ヲ定メタリ其後日夜工事ヲ急ギ明治四十五年六月ニハ完成シ初メテ星印「タンニン」ドライエキス」ヲ製造スルニ至レリ實ニ本邦ニ於ケル固形「タンニン」エキス」製造ハ是ヲ以テ嚆矢トナス

爾來極力製造ニ努力シ産額年ト共ニ増加セシガ網走線開通ト共ニ原料ヲ北見國内ヨリ採收シ年産額四十五萬貫以上ニ及ブニ至レリ然レドモ大阪本社ノ調製櫛造ノ増加ニ連レ年々ノ生産額益々増加セザルベカラザル一方ニ於テ之レガ原料ノ供給ハ無盡藏ト稱サレタル十勝北見地方ノ櫛林モ漸次減少シ此儘ニテ進マバ或ハ十數年ヲ出デズシテ櫛樹林ノ滅亡ヲ來サンヲ憂ヒ種々苦心研究ノ結果大正五年五月櫛樹幹ヨリ單寧ヲ製造スル方法及精製方法ヲ發明シ之ニ關スル專賣特許四個ヲ得テ直ニ改造増設ヲ斷行シ大正六年六月完成シ其後新裝置ニヨリテ樹幹部原料トシテ製造シツツアリ

サレバ林産物利用上些カモ遺利ヲ存スル所ナク從來殆ンド薪炭用以外ニハ無價値ト目サレタル櫛材モ尤モ有用ニ且巨額ノ價値ヲ有スル者トシテ利用セラレ本道森林政策上多大ノ貢獻ヲナセリ加フルニ從來年々數千町歩ノ櫛樹林ヲ伐採セシメ新製法發明以來數百町歩ニテ同量ノ製品ヲ供給スルコトヲ得ルニ至レリ

其後製法ニ就テハ常ニ研究ヲ怠ラズ新事實ヲ發見益々改良ヲ加ヘ年産額六十萬貫ニ達スルニ至レリ

原料供給ニハ專門技師ニヨリ現今所有櫛樹林三萬餘町歩ヨリ四十年

シ

サレドモ固形エキスニテモ其種類多クカツチ、マンダローブ等ハ今日一般ニ使用セラレツツアリ是等ハ其樹木ニ含有スルタンニン比較的多ク從テエキストラクトト爲スコトモ容易且ツ價格モ廉ナレドモ鞣皮材料トシテ靴底皮調帶ノ如キ厚物ニ對シテハ其効力極メテ少ク獨リ我ガ櫛造エキスヲ以テ最良トス

サレバ海外ニ於テモ櫛造エキスハ最モ尊重セラレ居レドモ其原料タル櫛樹始ニ缺乏シ唯獨米ニ於テ殖林ニヨリ僅カニ其缺ヲ補ヒ製造シ居レドモ輸出スルガ如キ數量ニ至ラズ

我社製品ハ上述ノ如ク厚物ニ最適ノ櫛造エキスニシテ然モ其純單寧含有量ハカツチマンダローブト異ナルコトナク約五十パーセントニ及ビ其優秀ナルヲ示セリ

斯ノ如ク優秀ナル我社製品ハ創業以來各地ノ博覽會共進會ニ出品ノ都度其優秀ナルヲ認メラレ今日ニ及ベリ

- 即チ
- 大正元年十一月 拓殖博覽會 銀 賞 牌
- 大正二年六月 明治記念拓殖博覽會 金 賞 牌
- 同 三年七月 大正博覽會 金 牌
- 同 四年十一月 第二十勝物產共進會 名 譽 賞
- 同 五年五月 貿易品共進會 金 牌
- 同 七年九月 北海道博覽會 金 牌
- 同 八年五月 畜産博覽會 二 等 賞 銀 牌

審査請求ノ主眼

單寧ハ非結晶性ノモノナレバ「固體エキス」トナスハ困難ナル事



業ニ屬シ爲メニ從來一般「液體エキス」トシテ製造セラレタリ然ルニ「液體エキス」ハ運搬容器其他種々ノ不便多キヲ以テ歐米ニテモ之レガ研究スルモノ多キニ至リ近時「固形エキス」トシテ製造スルモノアルニ至レリ我社ニ於テモ種々研究ヲ重テ爰ニ初メニ本邦ニ於テ「固形タンニンエキス」ヲ完全ニ製産スルヲ得ルニ至レリ

本固形エキスハ右ノ如ク「液體エキス」ニ優ルハ勿論般モ必要ナル材料トシテ他ノカツチマンダングロブ等ヨリ優秀ナルハ前記効用ノ項ニ於テ述ベタル如クニシテ軍需品其他一般需要ノ製革用ニ缺ク可カラザル重要品ナリ

殊ニ大正五年從來ノ樹皮ヨリ「タンニン」ヲ採收スル方法ヨリ一大改革ヲナシ樹皮幹ノ原料トシテ利用シ其生産費ヲ減ジタルノミナラズ一方ニハ從來年々數千町歩ノ立木ヲ伐採セシテ之レガ約十分ノ一ノ面積ノ立木ヲ原料トシテ同量製品ヲ供給スルコトヲ得ルニ至リ他ニハ從來重要視セラレザリシ木質部ヲ全部利用スルモノナレバ森林經營上及國家經濟上ノ利益莫大ナルモノアリ

又假リニ從來ノ樹皮ノミヲ利用スル方法ニテ進マバ十數年ヲ出デズシテ樹皮ノ減亡ヲ來シ重要ナル單寧ノ生産ニ一大危機ヲ招來スベカリシヲ本發明ニヨリ之ヲ永久事業トシテ永遠ニ單寧供給ノ途ヲ開キタル結果ハ過般歐洲戰亂當時ノ如ク輸入杜絶ノ場合ニ於テモ何等憂フルコトナク完全ニ單寧ノ自給ヲ得更ニ將來如何ナル場合ニ於テモ永久ニ且完全ニ單寧自給ノ途ヲ講ジ得ルニ至レリ

惟摩ハ木炭ニ次グ主要林産物ナルノミナラズ亦主要輸出品タリ而シテ其ノ主要産地ハ大分宮崎靜岡ノ三縣ニシテ島根鹿兒島二縣ニ次グ

要ナル林木ヲ使用スルノ要ナキヲ以テ科學ヲ應用セル品種ノ淘汰及飼育ニ熱中シ以テ優良品ノ多額ヲ期スルコトハ林業上ノ急務トス  
 醋酸石灰ハ和歌山縣ノ炭産製品九點宮崎縣ノ木材乾留製品一點ノ出品アリシニ過ギズ、之レ其ノ輸入激増シ内地品ハ其ノ品質或ハ價格ニ於テ之ト競争シ難ク斯業ノ萎靡頹廢セシ結果ニ外ナラズ而カモ分析ノ結果ニ徴スルニ今回ノ出品ハ何レモ優良ニ其ノ價格亦廉ナルヲ以テ全國ヲ通ジ努メテ止マザレバ之レヲ再ビ國産トナスコトノ難カラザルヲ思ハシムルモノアリ

醋酸石灰分析成績

縣氏名	番號	供試當時含有水分%	供試品中醋酸石灰%	無水物供試品中醋酸石灰%	有機夾雜物(主トシテシタル)	有機夾雜物(主トシテタル)
和歌山縣	一	三・六九	八・六三	七・七四	三・六九	三・六九
太田六右衛門						
山崎靜吾	二	四・二二	八・四六	六・〇三	九・八四	〇・六九
同						
山本貞次郎	三	四・七二	七・六五	五・五一	八・六八	四・三九
同						
生馬恒七	四	二・五三	七・〇〇	六・〇四	一〇・〇六	六・七八
同						
坂本信太郎	五	一・五五	八・五〇	八・四九	二・〇二	五・〇六
同						
永井豐太郎	六	二・五三	七・三六	六・五七	六・九五	一〇・四六
同						
三前松一郎	七	三・四六	八・八六	八・四七	一〇・四六	三・〇六
同						
同	八	三・七〇	八・八六	八・四七	七・六三	四・四〇
同						
田中太一郎	九	四・九〇	七・三六	八・〇二	八・七〇	六・五八
同						
宮崎縣	一〇	三・三〇	八・二〇	八・八六	七・六三	四・四二
内藤工業所						

漆液ハ漆器製造上必要缺ク可カラザルモノナルニ係ラズ其ノ自給益々不可能トナルハ林業上甚ダ遺憾トスル處之レハ内地ニ於ケル漆樹栽

今回ノ出品數ハ靜岡最多ニシテ大分宮崎之レニ次ギ他ノ二縣ハ此等三縣ノ半ニモ達セズ、其ノ品質ハ靜岡ノ冬菇大分宮崎ノ葉柄優良ナリト雖モ而カモ大分宮崎ノ冬菇及靜岡ノ葉柄亦決シテ遜色アルモノニアラズ、鹿兒島島根二縣ノ出品ニ到テハ優良ノモノナキニアラザルモ其ノ出品ノ全部ヲ通覽スルニ著シク劣ル處アルヲ遺憾トス由來惟摩ハ品質ノ優良ノモノヲ得ル爲メニ特ニ品種ノ淘汰ヲ要セズ、又特種ノ栽培法ヲ用ユルノ要ナキニ係ラズ其ノ品質ニ非常ノ優秀ヲ生ズルハ主トシテ栽培ノ要ヲ自覺セザルモノ多キニ依ル今ヤ原料林漸ク乏シカラントスルノミナラズ科學ノ進歩ハ之ヲ他ニ使用スルコト有利ナラントスル傾向ノ著シキニ際シ單ニ人工播種及乾燥室ノ使用ヲ以テ満足スルコトナク尙ホ進シテ科學ノ應用ヲ盛ニシ原料木ノ使用ヲ節シ良質ノモノヲ多ク産スルコトヲ希望シテ止マザルナリ

惟摩以外ノ食用菌類ノ出品ニハ木耳及香茸アリ前者ハ小笠原島後者ハ岡山縣ナリ同島ノ木耳ハ其ノ品質年々追フテ向上スル傾向有セリ若シ夫レ人工栽培法ヲ普及スルニ於テハ良品多額ハ期シテ俟ツ可キモノアラシ香茸ハ未ダ天産物獲得ノ域ヲ脱セズ乃チ茲ニ細詳セズ  
 五倍子ノ出品ハ惟摩ニ次グ其ノ産額ニ於テハ和歌山、岡山、愛媛ノ順位ニアリト雖出品ハ岡山最多ニシテ山口之レニ次ギ愛媛ノ次ニ岡山縣ハ夙ニ人工繁殖法ニ意ヲ用ヰテ今日ノ多産ヲ來シタリト雖品種ノ淘汰ニ力ヲ注ガザルヲ以テ縣下ヲ通ジテノ出品區々隨テ優良品ノ産地タル名聲ヲ博スルニ至ラザルヲ遺憾トス  
 由來本邦ノ五倍子ガ單寧資料トシテ優秀ナルハ夙ニ世界ノ定評ヲ專ニスル處其ノ化學工業上ノ用途ハ生産ノ増加ニ伴フモノニシテ而シテ其ノ飼育ハ荒廢地若クハ砂防地ニ植栽ス可キ鹽膚木ノ葉柄ニ依リ特ニ上

培ノ困難ナルニ因ル然ルニ今ヤ之ガ栽培ヲ朝鮮ニ試ミテ多少ノ曙光ヲ認メ其ノ漆液亦分析ノ結果優良ナルコトヲ知レリ乃チ同地ニ於ケル漆樹栽培ノ益々盛ナランコトヲ望ムト共ニ内地ニ於ケル増殖亦希望シテ止マザルナリ  
 懷爐灰ハ輕便ナル保温材料トシテ賞賛セラレ輸出量亦近年増加ノ傾向ヲ有セリ而シテ其ノ原料ハ農家ノ廢物タル苧殼ニシテ其製法亦簡單ナルニヨリ生産ノ増加ハ希望スル處今回ハ既知ノ東京市及栃木縣以外ニ長野及廣島二縣ノ新業者ノ出品ヲ見ルヲ得タリ栃木縣ハ懷爐灰ノ産地トシテ夙ニ其ノ名聲ヲ博シ其ノ産額亦大ニ而シテ其ノ主産地栃木町ニ於テハ今ヤ同業組合ヲ組織シ品質ノ改善統一ニ專念セリ由來市場ニ現ハルル懷爐灰ハ其ノ品質區々ニシテ或ハ引火セザルモノアリ或ハ火力強キニ過グルモノアリ時ニ詰メ方不十分ナル爲懷爐ノ位置ヲ變ズル時ハ炭粉忽チ崩落シテ消火若クハ失火ノ原因ヲ醸スコトアリ茲ニ於テ組合ヲ組織シ品質ノ統一改善ヲ計ルノ急務ナルコトハ容易ニ了解セラレ得ベシ次ニ栃木縣懷爐灰同業組合ノ業務成績書ヲ掲ゲントス

組合業績書

栃木縣栃木町 栃木懷爐灰業組合

一、組合ノ設置

當組合ハ明治四十一年八月ノ設立ニ係リ當時組合員ハ僅カニ五名ニ過ギザリシガ漸次懷爐灰業ノ發展ト共ニ同業者増加シ現今ハ組合員十一名ニ達シ組合ノ目的ヲ達セン爲メ左記ノ如キ事業ヲナシツツアリ

二、組合ノ業績

(1) 原灰ノ取締

斯業改善ノ第一歩トシテ原灰ノ取締ノ緊切ナルベキヲ認メ即チ原



懷爐灰總生產高年次表 大正十年六月調

年度	噸數	箱數	金額	噸數	箱數	金額	合計
大正五年度	一・四四	三・四一	一七・三三	四・三三	一〇・八二	三〇・七九	
同 六年度	八・四一	一八・九四	一三三・六六	三・九	八・四四	五三・二九	一八六・九五
同 七年度	一・四三	三・四一	一五・五九	三・五	九・四三	六〇・四九	一三三・五九
同 八年度	一・四三	三・四一	一五・五九	四・九	一三・四四	六三・九	一三三・五九
同 九年度	一・四三	三・四一	一五・五九	七	二・三	三三・八	一三三・五九
一、價格ハ一箱(三百袋入)六圓五拾錢(五箇年平均)ト立テテ							

見マシタ

二、右ノ表船積テ出サレルモノ及鹿沼、葛生等ヨリモノハ除外シテアリマス

紫藏ハ山形福島新潟三縣ノ出品アリ品質優良ノモノ夥カラザルモ單ニ天産物ノ採集加工ニ甘ンズルハ遺憾ナキヲ得ズ其ノ需要ハ工業品ノ如ク盛衰ノ甚シキモノナラザルニヨリ假令作物トナシ得ズトナスモ其ノ繁殖ニ多少ノ意ヲ用キテ良品多額ノ域ニ達セシメンコトヲ望ム  
其ノ他ノ出品ニハ特ニ記述スルニ足ルモノナシ

第九分掌 審査報告

報告員審査官 川添孝藏

本分掌ニ屬スル出品ハ第八十五類ニ於ケル狩獵產物、狩獵方法及狩獵機械、器具ナルモ狩獵產物ノ内毛皮五十二點ハ本會第十二部第五百三十六類ノ分掌ニ屬セリ而シテ是等ハ主トシテ各產地別ニ北海道館、朝鮮館、樺太館ニ出陳セラレ内地產ノモノハ愛知縣ヨリ、兎ノ毛皮各一點ノ出品ヲ製作工業館ニ見タルニ過ギズシテ大正博覽會ニ比シ甚ダ遜色

灰業ハ動モスレバ製造並ニ販賣何レモ目前ノ利益ノミニ眩惑シ粗製ヲ顧ミズ又依裝貫量ノ如キ更ニ標準ナクシテ取引上ノ不便少ナカラズ甚ダシキハ不良原料ヲ使用シ故意ニ混入物ヲナシ濫造ニ陥リ粗惡劣等ナルモノアリ爲ニ各需用者ノ信用ヲ失墜シ前途實ニ憂慮ニ耐ヘザルモノアリ依テ本組合ハ原灰ノ取締ヲ行ヒ以テ營業上ノ惡弊ヲ防止シ努メテ當業者共同ノ利益ヲ増進セシメツツアリ

(2) 懷爐灰ノ需用ト產額ノ前途

大正十年度上、下兩郡大廠栽培別ハ三二五二町八反ニシテ此レヨリ得ラルル原料廠發灰ハ四八八、〇七〇貫ニ達シ懷爐灰(十本詰三百袋入)一六二、六九〇箱ヲ製造シ時價壹百萬圓以上ノ產額迄増進シ得ラルル可キ前途益々有望ナル事業ナルガ故ニ同業者協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ新業ノ改善發達ヲ圖リ利益ヲ増進セシムル爲メ左記ノ業務ヲ實行スルニ努力シツツアリ

一、組合ノ目的ヲ達スル爲メ必要ナル調査ヲナシ之レニ對スル相當ナル施設ヲナスコト

二、製品ノ統一ヲ圖リ不正品又ハ粗惡品ノ取引ヲ矯正スルコト

三、需用品ノ共同購入ヲ獎勵スルコト

四、組合員ノ製品原灰ニ對シ運賃ノ輕減ヲ圖ルコト

五、紛議ノ調停又ハ仲裁ヲナスコト

六、新業ニ功勞アル人又ハ組合員ノ使用人ノ善行ヲ表彰スルコト

七、博覽會共進會ノ出品ヲ獎勵斡旋スルコト

八、前各項ノ外組合ノ目的ヲ達スル爲メ必要ナル事項

アルハ復以テ内地野生獸類毛皮生産ノ歸嚮ヲ察スルニ足ルベシ又今回ハ獸角羽毛類ノ出品ヲ見ズ殊ニ狩獵產物ノ保護繁殖及狩獵方法ニ關スル出品ノ絶無ナリシハ林業對狩獵ノ進拂其緒ニ就カントスルノ時ニ際シ甚ダ寂寥ノ感ナクンバアラズ狩獵ノ機械、器具ハ銃器六十五點同附屬用具類四十四點、小鳥捕獲網十八點、獸類捕獲器六點、其他甲種狩獵用具類十點、東京銃器製造組合事業成績一點ノ出品アリ他ニ該事業成績ノ參考品トシテ二連獵銃六點、單發獵銃十點、空氣銃七點、獵銃・半製品十一點乙種狩獵附屬用具三十一點ノ出品アリ之ヲ要スルニ本分掌ニ屬スル審査出品點數ハ百四十四點ニシテ出品人員十五名ナリ其地方別ハ東京府十二名神奈川縣、茨城縣、福岡縣各一名トス今審査出品點數、審査出品人員及受賞者數ヲ示セバ左ノ如シ

(第一表)

府縣名	出品人員	出品點數	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	計	出品人員ニ對スル百分率
東京府	一二	一〇七	二	三	二	九	九	七割五分
神奈川縣	一	三一	一	一	一	三	三	一〇割
茨城縣	一	三	一	一	一	三	三	一〇割
福岡縣	一	一	一	一	一	三	三	一〇割
計	一五	一四四	二	三	四	三二	三二	八割

出品品種及擬賞一覽表(第二表)

品名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	計
二連獵銃	四二	九	二	二	三	二	九
單發獵銃(村田式共)	二二	(八)	一	一	一	一	四
空氣銃	二	(一)	一	一	一	一	四
甲種狩獵用具	三四	四	一	一	一	一	四
乙種狩獵用附屬品	四四	(五)	一	一	一	一	四

銃器製造事業成績

計	一四四	(一四)	二	三	四	二	一
---	-----	------	---	---	---	---	---

備考 甲種狩獵用具トハ獸類捕獲器、霞網、網入等ニシテ

乙種狩獵用附屬品トハ雷管詰替器、紙「ケース」口卷器、洗矢藥莢等トス

同一人ノ出品ニシテ品名ヲ異ニセル場合ハ人員數ニ於テ( )ヲ附セリ

銃器ノ審査出品點數ハ六十五點ニシテ之ヲ分チテ二連獵銃四十二點、單發獵銃二十一點、空氣銃二點トス審査ハ左記方法ニ據リ之ヲ施行セリ

- 一、一般 検査(考査鑑定)八十五點(參考品ヲモテ)
- 二、銃器分解検査 二十四點
- 三、射擊 検査 二十三點
- 四、金質 検査 五點
- 五、工場設備調査 五箇所

抑々本邦ニ於ケル二連獵銃ノ製作ハ特ニ歐洲戰爭ニ一新紀元ヲ刻セリト謂フモ過言ニアラザルベシ從來高級二連獵銃ノ如キハ主トシテ供給ヲ英、佛、白、獨ニ仰ギ其技巧價額ニ於テハ我々ハ到底彼等ニ及バズトナシ拱手傍觀ノ體ナリシガ偶々歐洲ノ大戰ノ結果忽チ輸入ノ杜絶ヲ來シ需給ノ均衡ヲ失スルニ至ルヤ銃器ノ時價ハ暴騰相繼ギ爲ニ該事業ノ擴張ヲ促シ當業者研究ノ結果ハ大ニ技巧ノ見ルベキモノヲ出セリ即チ東京府岡本光長及同大倉象馬、同原徳次郎ノ出品ニ係ル十二番二連獵銃ハ金銀牌ニ入賞シ外觀、平衡機能、構造、仕上グノ點ニ於テ賞讃スルニ足ル尙ホ東京府林園藏出品ノ「トラップ」用二連獵銃及同中田彌吉出品ノ「トラヒガン」ハ本邦ニ於ケル新ラシキ試ミトシテ注目ニ



値ス然レドモ多数出品中仔細ニ之ヲ觀察スルトキハ製作上尙一段ノ改良ヲ要スベキモノ頗ル多シ是等ノ缺點ニ就キ以下追次列記スル所アリ

- 一、銃器ノ外觀ハ能ク整ヒ技工亦見ルベキモノアリト雖モ意匠彫刻ノ如キ未ダ傳統的因習ヲ脱セザルモノアリ
- 二、銃器全體ノ重量ハ一般ニ適良ナリト雖モ其ノ各部ニ於ケル重量ノ配當不良ニシテ肩付ノ際平衡ヲ失スルモノアリ
- 三、銃身ハ銃器ノ生命ナルヲ以テ其良否ハ延テ命中精度ト使用者ニ對スル危險頗ル大ナルモノアリ故ニ之ヲ製作ニ就テハ一段ノ注意ヲ要ス今回ノ出品ニ徴スルニ穿孔及孔縁作業ニ對スル製銃家ノ苦心ノ跡ハ歴々之ヲ認ムベシト雖モ猶ホ製造ノ技術及設備ニ就キ一層研究スベキ餘地多シ例ヘバ銃腔藥室ニ大小ノ疵痕ヲ存スルモノ銃身ノ眞宜ナラザルモノ腔圖ノ正シカラザルモノ、腔中研磨ノ不十分ナルモノ、藥室ト銃腔ト偏心ナルモノ、藥室不正ニシテ藥莖ヲ膨脹セシムルモノ等アリ殊ニ注意ヲ要スベキハ藥室外部ニ於ケル刻印打痕ノ藥室內面ニ及ベルモノ及藥室下面ノ弧削淺キニ過ギ藥室內厚ヲ過度ニ減少シ甚シキニ至リテハ藥室ニ通ズル危險銃ノ出品ヲ見タルガ如キハ最モ遺憾トスル所ナル其他銃身外部ノ研磨不十分ニシテ表面波狀ヲナシ異様ノ反射ヲ生ズルモノ又照門上縁ノ水平ナラザルモノアリ共ニ照準ヲ害シ銃器ノ品位ヲ低下スルガ故ニ今後一層ノ研究ヲ要ス
- 四、銃身ノ金質ハ良好ト認ムルモノ尠ク炭素量(C)乃至(S)ニシテ燒入ノ效果ヲ收ムルコト難シ蓋シ良好ナル金質ノ採用ハ銃器ノ安全ト減量トニ大ナル利益ヲ有スルモノナリ

- 五、銃身ト銃器ノ接合ハ良好ナルモ少数ノ緩ミアルモノ又堅キニ過グルモノアリ引鐵ニハ引延ビ、弱落、軋リ落、引キアラ等調子ノ不良ナルモノ多シ又擊針頭ノ形狀正シカラザルモノ或ハ其過短ナルモノ過長ナルモノ、雷管ノ中心ヲ打タザルモノ等アリ此等ハ何レモ不發ヲ生ゼザレバ其良否ヲ問題トセザル傾向アルモ無煙火藥ハ點火困難ナルノミナラズ點火ノ良否ニ依リ彈丸速率ニ大ナル變差ヲ生ズルヲ以テ擊針ノ正擊ニ依ルモノト雷管ノ完全十分ナル發火ハ銃ノ威力發揚上缺クベカラザル要件トス
- 六、脫筒ハ概シテ良好ナルモ「エジエクター」ノ作用弱キモノ發射後藥莖ニ抽筒子ノ痕ヲ印スルモノ、抽筒容易ナラザルモノアリ
- 七、銃機要部ノ燒入不良ニシテ硬度不十分ナルモノ仕上粗ナルモノ等アリ
- 八、螺子ハ一般ニ正規ノ形狀ヲナシタルモノ極メテ少シ蓋シ銃器各部結合ノ確實如何ハ其機能及使用者ノ危害ニ關スル所頗ル大ナルモノアルヲ以テ從來多ク使用セラレタルガ如キ粗惡品ハ今後大ニ戒メザルベカラズ
- 九、先臺ノ結合ニアリテハ一般ニ良好ナルモ確實ヲ缺クモノ、銃身トノ間隙ヲ存スルモノアルガ如キハ未ダ粗製品タルヲ免レズ

以上出品ノ實物審査ニ加フルニ出品人ノ事業成績ヲ參酌シ更ニ銃器ニアリテハ必要ト認メタルモノニ就キ命中及發射試驗ヲ行ヒタリ該試驗

ハ大正十一年四月二十七日東京砲兵工廠構内射撃場ニ於テ四十碼ノ距離ヲ保チ直徑三十吋ノ筒内ニ入りシ霰彈ノ數ト侵徹力發射前後ノ銃ニ及ボス影響及銃器部ノ運用ヲ實驗セルモノニシテ使用ニ供セシ彈藥ハ

英國「エレ」社製(藥筒十二番)ノ「ダイヤモンド」無煙藥三十三「グレイン」ヲ以テ「チルド」五號霰彈「オンス」十六分ノ一ヲ裝填セルモノニシテ其命中精度ハ次表ノ如シ

出品者	出品番號	價額	銃器ノ種類		發射筒	命中		備考
			銃身長吋	銃身長吋		右銃身	左銃身	
中田彌吉	(通番號) 八一	三五〇	二九	二九	二	全較	全較	十二番徑 單引二連銃
子安長太郎	(通番號) 五二	二〇〇	二八	二八	一	全較	全較	十二番徑 單引二連銃
岡本光長	(通番號) 四〇	四二〇	二八	二八	二	全較	全較	十二番徑 單引二連銃
坂場志業	(通番號) 四五	一八五	二八	二八	一	全較	全較	十二番徑 單引二連銃
大倉象馬	(通番號) 七二	一六〇	二九	二九	一	全較	全較	十二番徑 單引二連銃
同	(通番號) 三	三五〇	二九	二九	一	全較	全較	十二番徑 單引二連銃
同	(通番號) 五	三八〇	二八	二八	一	全較	全較	十二番徑 單引二連銃
同	(通番號) 三	三五〇	二九	二九	一	全較	全較	十二番徑 單引二連銃
同	(通番號) 五	三八〇	二八	二八	一	全較	全較	十二番徑 單引二連銃
同	(通番號) 一三	一五〇	二九	二九	一	全較	全較	十二番徑 單引二連銃
同	(通番號) 一三	三八〇	二九	二九	一	全較	全較	十二番徑 單引二連銃
同	(通番號) 四	三八〇	二九	二九	一	全較	全較	十二番徑 單引二連銃
同	(通番號) 九一	三〇〇	二八	二八	一	全較	全較	十二番徑 單引二連銃
同	(通番號) 九一	一七〇	二九	二九	一	全較	全較	十二番徑 單引二連銃
同	(通番號) 九四	一七〇	二九	二九	一	全較	全較	十二番徑 單引二連銃
同	(通番號) 七二	一六〇	二九	二九	一	全較	全較	十二番徑 單引二連銃
同	(通番號) 七二	二五〇	二九	二九	一	全較	全較	十二番徑 單引二連銃
同	(通番號) 八一	二五〇	二九	二九	一	全較	全較	十二番徑 單引二連銃
同	(通番號) 七五	二四〇	二八	二八	一	全較	全較	十二番徑 單引二連銃
同	(通番號) 一	一四〇	二八	二八	一	全較	全較	十二番徑 單引二連銃

單發獵銃ハ比較的多數ノ出品ヲ見タルモ概シテ優良品ニ乏シク價格ニ入リシモノナカリシテ遺憾トス空氣銃ハ僅ニ同一人二點ノ出品ニ止リ他ニ比較スベキモノナキモ銃器各部ノ製作ハ概ネ適良ニシテ命中精度可ナルヲ認ム若シ之ガ生産費ノ低下ヲ見ルニ至ラバ需要ノ增加期シテ

待ツベキモノアルヲ信ズ之ニ對スル東京砲兵工廠構内射撃場内ニ於テ行ヒタル命中精度及侵徹量ニ關スル試驗成績ヲ舉グレバ左ノ如シ(但シ射距離八十間トス)



出品者 出品番號 品名 價額 發射 公算(連環) 杉板ニ  
 原 德次郎 (通番號) 九九式 九九式 九九式 九九式 九九式  
 原 德次郎 (通番號) 九九式 九九式 九九式 九九式 九九式

本分掌中今回ノ出品ニシテ特ニ記スベキモノハ東京銃器製造組合ノ事業成績トナス同組合ハ明治二十三年ノ創業ニ係リ現在東京市ニ於ケル銃器並同附屬品製造業者三十二名、部分品製造業者三名、火造師二名、筒中師三名、銃床師七名、彫刻師三名、着色師三名計五十三名ヲ統一スル處ノ唯一ノ機關トシテ常ニ新業ノ進歩發達ニ貢獻セリ而シテ該組合ハ十九箇條ノ規約ニ依リ任意組合ヲ組織セルモノナルガ故ニ之ガ改良ノ餘地多クアルベキモ本邦製銃業者ノ中心タル東京市ニ於ケル最近ノ生産額著シク増加シ其技工ニ長足ノ進歩ヲ見タルハ同組合ノ活動與ツテ力アルモノト認ム又同組合出品ノ銃器類ハ概シテ優良品ナリシヲ以テ同組合ノ業績ニ對シテハ銀牌ヲ擬賞セリ

甲種狩獵用具ニ屬スベキ出品中伊藤孝治ノ小鳥網用絹糸ハ頗ル優良品ナルモ尙改良ノ餘地アリ其他霞網ニ於テハ若色絲質等ニ更ニ改善ノ要アルベク獸獵捕獲器ニアリテモ其生命タル彈力ノ均等ニ缺クル所アルヲ遺憾トス乙種狩獵用附屬品ハ概ネ粗製品タルヲ免レズ殊ニ其主要部分ニ缺點アルハ之ガ改善ニ一段ノ努力ヲ望マザルヲ得ザルゾ例ヘバ口卷器ニ於ケル口卷部、詰替器ニ於ケル雷管押入ノ用ヲナス突出部或ハ藥莖ノ入ル可キ部分ノ不正圓ナルガ如キ、洗矢ニ於ケル木質ト金質ノ接合部及其接合後眞直ナラザル點アル等其鳥人袋ニアリテモ更ニ改善ヲ要スルガ如キ是レナリ唯帝國藥業製造株式會社ノ出品ニ係ル紙藥莖ハ大體ニ於テ賞讃ニ値スベシト雖モ紙質及金紙ノ接合部ハ更ニ改

良ヲ施スノ要アルベク眞鍮藥莖ニアリテモ金質ノ改善ニ研究ヲ盡スノ餘地アリ由來本邦ニ於ケル獵用藥莖ノ製造ハ主トシテ東京砲兵工廠ニ於テ行ハレ以テ輸入品ノ防過ニ努メシモノナルガ前記ノ會社ハ本邦ニ於ケル之ガ需給ノ大勢ニ鑑ミ大正八年四月ヨリ本品ノ製造ヲ開始シ爾來尠カラザル苦心ト犠牲トヲ拂ヒ以テ最近一箇年三百五十萬個ノ生産ヲ見ルニ至リタルハ洵ニ喜ビニ堪ヘザル所ナリ同會社ノ製品ハ創業日猶ホ淺キ爲メ海外製品ニ比シ遜色ナキ能ハズト雖モ今後ノ研究ト改良トニ依リ之ヲ凌駕スルコト敢テ至難ノ業ニアラザルベシ切ニ當業者ノ發奮ヲ望ム

之ヲ要スルニ狩獵用機械器具ハ世界ノ平和克復ト共ニ盛シニ外國品ノ輸入ヲ見ルニ至リタルヲ以テ當業者ハ製作ノ改善ニ技術ノ練磨ニ將々生産費ノ節減ニ一段ノ努力ヲ拂フニアラザレバ再ビ外國品ノ壓倒ヲ受ケルノ虞ナシトセズ本邦製銃業者ノ前途ヤ洵ニ多事ナリト謂フベシ  
 惟フニ本邦ノ狩獵家ハ今ヤ二十萬人ヲ超エ其中輸入銃ヲ使用スルモノ其五割ヲ出デザルベク残り十萬人ハ本邦品ヲ使用スルモノト推定スルニ難カラズ而シテ狩獵家ハ年ト共ニ其數ヲ増加シ且精巧ナル銃器ヲ稱贊スルノ傾向アリ從テ本邦ニ於ケル銃器ノ產額年々増加スルヲ見ル然レドモ其產額ハ統計ノ微スベキモノナキモ其概算數ハ東京市内當業者ノ見込ニ依レバ大正三、四年頃ニハ約七千挺、同五年ニハ九千挺、同六、七年頃ヨリ倍加シテ約一萬三千挺ニ達シ同八、九、十年ニ於テハ一萬五千挺ヲ下ラザルベシ是等ハ當ニ同地ノ需要ヲ充タシタルノミナラズ滿州、朝鮮、樺太、臺灣、南洋方面ニモ大ニ販路ヲ廣メ漸次良好ノ成績ヲ收メツツアリト雖モ未ダ大規模生産ノ工場ヲ見ルニ至ラザルハ甚ダ遺憾トスル所ナリ尙ホ本邦銃器検査機關設置ニ關シ希望ノ一端ヲ述ブル所アラムトス蓋シ銃器外觀ノ美醜、及之ガ使用ノ便否等ノ如

キハ容易ニ之ヲ判定シ得ベシト雖モ銃器ノ安全、命中射擊機能等ニ就

テハ射擊試驗ヲ行フニアラザレバ到底之ヲ確知スルコト能ハザルモノナリ諸外國ニ於テハ風ニ此等ノ點ニ關シ射擊試驗ヲ行ヒ之ニ合格スルニアラザレバ販賣ヲ許可セザルノ制ヲ探レリ然ルニ本邦ニ於テハ未ダ之ガ制ヲ設クルニ至ラズ而モ今回ノ出品中一回ノ射擊試驗ヲ行ハザルモノアリ斯ノ如キモノヲ販賣スルハ銃器ノ安全及命中射擊機能上ヨリ見テ輕々ニ附スベカラザルモノトス願フニ銃器ハ若干ノ検査器ト外觀トニヨリ大略其良否ヲ判定シ能ハザルニアラザルモ地金ノ内部ニ存在セル製鋼上ノ微疵ノ如キハ強裝藥射擊ヲ行フニアラザレバ不測ノ危險ナキヲ確保セラレザルモノナリ而シテ本邦ノ如キ小規模ノ設備ニ依リ製作セラレル銃器ハ射擊ノ結果各部ノ修正ヲ行フノ必要アル場合多キヲ以テ此機關ノ設置ハ製銃業者ニ取リテハ一日モ缺クベカラザルモノナリ聞ク所ニ據レバ東京銃器製造組合ニ依リ此機關ノ設置ヲ見ントス洵ニ機宜ニ適セル計畫ト謂フベシ、次ニ今回金牌ヲ受ケタル東京府岡本光長及同大倉家馬ノ銃器製造作業ニ就テハ新業ノ參考ニ資スル所アルヲ以テ出品解説書ヨリ之ヲ摘録シ其一部ヲ茲ニ紹介スベシ

一、岡本光長銃器製造工場(東京市下谷區仲徒士町三丁目)

- 工場延坪間口三間奥行六間總坪數十八坪
- 構造木造瓦葺
- 原料 銃身用鋼鐵九州產、銃機部用鐵九州產
- 銃床用(胡桃材) 北海道產、同上(桑材)三宅島產
- 獨逸國製五馬力電氣發動機關一臺
- 銃身筒中繰抜機械二臺、「フライス」盤五臺
- 製作機械 螺絲製造機械一臺、村田型銃尾筒穴繰機械一臺、橫

「一」盤二臺、旋盤五臺、ライフル「入」機械一臺、仕上

工用振付萬力十二臺ヲ使用ス  
 製造方法、銃身ハ銃身筒中繰抜機械ヲ以テ筒中ヲ作り外部ハ銃身傾斜付旋盤ヲ以テ削リ仕上ゲ而シテ外部及筒中銃身磨器機ニテ金剛砂擦キ上ゲ製作スルモノナリ  
 其他ノ銃機ハ大體練鐵又ハ鋼鐵ヲ以テ鍛へ「フライス」盤ニテ外部ノ裝形及機關ノ位置ヲ模範ニ依リ定メ小孔類ハ凡テ「ボール」盤ニテ之ヲ穿テ總テノ螺絲類ハ螺絲製作器械ニ依リテ製造スルモノナリ

斯クシテ製作シタルモノヲ第一種仕上トシ更ニ之ヲ取揃ヘ一定ノ式ニ從ヒ仕上工ニ於テ組立テ銃床ヲ添ヘ機關部ノ調子ヲ定メタルモノヲ第二種仕上ゲトス  
 而シテ銃身ヲ磨キ上ゲ著色シ銃機ハ彫刻ヲ爲シ磨キ上ゲ全目模樣ノ炭素蒸色炭素大色(瑠璃色或ハ茶色)ヲ現ハシ組立仕上ルヲ第三種仕上ゲトシ以テ總仕上ゲトナス

二、大倉家馬銃器製造工場(東京市下谷區仲徒士町三丁目)ニ於ケル製銃法  
 銃身ハ材料ヲ所要ノ長サニ切斷シ藥室部ヲ火造シ銃身穿孔機ヲ以テ穿孔シ所要口徑ヨリ一乃至二番方小ナル口徑ニ繰抜キ、銃身用旋盤ヲ以テ外部ヲ削成シ鑄仕上ノ上絞筒雜ニテ手工ヲ以テ絞筒ヲ作成シ臈中仕上ヲ爲ス  
 藥室部、反動受鐵、先臺取付部駐座等ヲ取付ケ並列シ鑄看シ鑄鐵ヲ表裏ヘ特殊ノ半田鍍ヲ以テ鍍着ス

銃機部ハ鋼材ヲ火造シ平削機及鑽孔機ヲ以テ成形ヲ爲シ手工ヲ以



テ入念ニ仕上ヲ爲ス發條、擊鐵、擊針等ノ樞要部ハ周密ナル注意ヲ以テ燒入作業ヲ行フモノトス

銃臺ハ貯藏中ノ乾燥材中ヨリ製品價値ニ應ジテ木理美麗ニシテ條理可ナルモノヲ撰ビ銃床師ニ依リ全部手工ヲ以テ製作セシム銃全體ノ構成ヲ終リタル後ニ發射試驗ヲ行ヒ銃身ノ耐壓力命中、機能ノ可否等ノ諸點ヲ検査シ更ニ分解ノ上各部分共研磨仕上、彫刻、裝飾、染烘炭素燒ヲ行ヒ竣成スルモノトス

上述ノ一般工程中銃器腔中寸度ト銃身長サトノ關係及連絡作業ハ最モ周到ナル注意ト熟練セル技術トヲ要スル點ナリ出品人ハ歐洲大戰後一新セル英國火藥界ノ新標準三十三「グレン」級無煙火藥並相當彈量「オンス」十六分ノ一(戰前ハ「オンス」ニ適合セル銃腔寸度勾配、絞筒度合ヲ決定シタリ猶ホ銃臺寸度、勾配、偏リ重量、平衡ノ諸點ニ就テモ亦本邦人ノ體格ニ最モ的確ニ適合スル型狀寸度等ノ調査ヲ怠ラズ又製銃用必須ナル諸模範器、檢測器ノ備附ヲナス其主ナルモノヲ舉グレバ左ノ如シ

- 一、ブラウン、シャープ社製 三十六吋銃腔測定特殊微測計
- 一、ライト、ワード社製 藥室模範器
- 一、同 上 英式口徑測定器四番ヨリ五十番徑迄測定シ得
- 一、ガスタフ、ゲンシヨ社製 口徑測定器五「ミリ」半ヨリ「十二」ミリメートル「マデ測定シ得
- 一、エレブラザリス製 「アーヴキング式」ロツクテスター
- 一、エヴァンス社製試射銃 十二番徑無雞ニシテ銃臺ノ寸度ヲ射手ニ適合セシムベク銃臺ノ勾配、偏リ長サヲ自在ニ變換シ

テ發射シ得

一、ライトワード社製 銃臺測定用レンジス、スケール  
同上ベンドゲージ  
同上ミツドルテーカー  
ガンウエキイトバランス  
トリツガーテスター等トス

一、同上  
一、同上

尙ホ東京府中田彌吉出品ノ試射銃「トライガン」及同林國藏出品「トラツプ」用二連銃ハ本邦ニ於ケル新ラシキ試ミナルヲ以テ出品解説書ヨリ其要領ヲ摘録シ茲ニ紹介スベシ

一、試射銃「トライガン」十二番徑無雞頭三重止  
出品人 中田 彌吉

試射銃「トライガン」ハ銃臺ノ寸度形狀ノ如何ハ操作ノ難易命中ノ精粗ニ關シ射手ノ能率ヲ左右スル最モ重要ナル點ナルガ故ニ用意周到ナル射手ハ常ニ自己ノ體格ニ適合セル銃臺ノ選擇ニ考慮ヲ費シツツアリ今回出品ノ試射銃ハ是等ノ要求ヲ充スベク銃臺ノ長短、勾配、偏リ「カストオフ」ヲ自在ニ變換シ固定的或ハ動的ノ物體ヲ射撃スル事ヲ得而シテ射手ノ體格ニ正シク適合セル寸度形狀ヲ測定スルノ用ニ供スルモノニシテ精良ナル獵銃ノ製作上缺クベカラザル要具ナリ

一、射撃術練習用「トラツプ用」十二番徑無雞頭二連銃  
出品人 林 國 藏

近年狩獵者間ニ十二番徑無雞頭二連獵銃ヲ使用スルモノ著シク増加セリ而シテ是等多數ノ狩獵家ヲ満足セシムル爲メ出品人林國藏ハ特三吋ノ藥莖ヲ使用シ得ル藥室ヲ有シ「オンス」二分ノ一ノ散彈「グラム」二分ノ一ノ火藥ヲ裝填シ百碼ノ距離ヲ確實ニ射撃シ得ル「エジエター付」トラツプ射撃兼鴨打二連銃ヲ創作セルモノトス



終